



訴訟法講義筆記

自第一
至第十

1654



114
A2764

第一

四月十日
訴訟法講義筆記



第二章 下等裁判所

呼出ス事

初告裁判所及ニ商法
裁判所ヲ總テ云ニ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



第五十九條 人權ノ一ニ付テハ被告人其住所

ノ裁判所ニ呼出サル可シ若シ其住所ノ知レサ

ル片ハ寄居スル地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

一人權トハ專ラ身分ニ關シタルヲ云フニ非

ス總テノ貸借授與等ノ義務人ニ對スルモノ

ニシテ物ニ對スルモノニ非ス其目的ノ人ニ

アルヲ云フ

一原告人ノ住所ニ被告人ヲ呼出スルハ被告人
ニ於テ多少ノ難儀ヲ蒙リ且種々ノ弊害ヲ生
シ其事實ヲ取調ニモ不都合多シ故ニ被告
人ノ住所ノ裁判所ニ呼出スルナリ
タトハ東京人ニテ長崎ノ人へ全ク貸レタ
リト訴フモノアラシ其真偽知ル可カラズ然
ルニ被告人ヲ東京へ呼出シ萬一詐偽ナルハ
ハ被告人ニ多少ノ費ヲ蒙ラシム依テ原告
人ノ方ヨリ被告人ノ地へ往クコトニナシ遠路
入費モ掛ルニヨリ右等ノ詐偽ヲ訴フコトク

被告人モ無益ノ害ヲ蒙ムルコトナシ故ニ被告
人ノ住所ニ往キ其裁判ニ呼出ストテ原則ト
定メタリ

一本又住所ノ知レサルコトアルハ定リタル住所
ノナキヲ云フナリ

一原被双方ノ住所隔絶スルカ或ハ故障アルキ
ハ原告人自カラ被告ノ住所へ行クニ及ハ
ス被告ノ住所ノ代書人ニ申送り之レニ托シ
テ訴訟ヲ為ストナリ

若シ被告人数人アルハ原告人ノ擇ニ從ヒ

其中一人ノ住所ノ裁判所ニ呼出サルヘシ

一 被告數人アルトキ各裁判所ニテ裁判スルニ於テハ其裁判各々異ナリテ債主ノ為メニ不都合生ス故ニ原告人ノ撰ミニテ一ノ被告人ノ住所ノ裁判所ニ呼出スナリ 後ニ詳カナリ

物權ノ事ニ付テハ其物件所在ノ地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

一 物權トハ動産不動産ノ物件ヲ總テ云フコトナレ共本條ハ不動産ノミヲ指シテ云ヘリ

例ヘハ土地ヲ已レノ所有トスル訴又ハ其入

ヘキコトヲ記スヘキニ此條ニ於テ之ヲ記セサルハ是レ法律ノ缺ナリ本條ノ下ニ動産ノ物件ハ被告人所在ノ裁判所ニ呼出スヘキコトヲ増補スヘシ

人權ト物權ト相混シタルコトニ付テハ其物件所在ノ地ノ裁判所又ハ被告人住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ

一人權ト物權ト混シタルトハタトヘハ家屋賣買ノ契約ヲ取極メタル上ハ買主其家ヲ現ニ受取ラスト雖モ其契約ノ時ヨリ即チ其所有

主ナリ然ルニ賣リ主引渡スヘキ期日ニ至リ
其家ヲ明ケ渡サ、ルニヨリ其違約ヲ訴フル
ハ人権トナリ又其家屋ヲ渡サ、ルニ付其呀
有ノ權ヲ訴フルハ物權トナルノ類ナリ
一又未タ丁年ニ至ラサルモノハ人ト契約ヲ為
スノ權ナシ其契約ハ廢シテ可ナリ故ニ丁年
者幼者ノ物ヲ買フ契約ヲナシタルニ付訴訟
起ル時 買主ハ契約ス可カラサル人ヨリ 幼者
買ヒタル故不正ノ所為トナル 幼者
ノ賣買スヘキノ權ナキニヨリ其契約ヲ取消
ヘント云ヒ又其物件ハ已レ所有ナリト云フ

額ヲ已レニ收納セントスル訴等是レナリ
又土地侵奪ノトニ付テ其地ヲ取返ス訴ハ即
チ物權ナリ
一然レモ失火洪水等ニテ土地ノ經界紛亂シタ
ルニ因リ其經界ヲ定ムルニ當リ隣地所有者
申合セテ要スルニ其者之ヲ承諾セサルモ之
ヲ承諾セシムルノ訴ハ人権ニ屬ス
一又甲長崎ニテ乙ニ千坪ノ地ヲ賣タリ然ルニ
其地ハ長崎ノ何ノ地ト定メ置カス後ニ甲ノ
違約シタルニ付乙ヨリ其違約ヲ訴フルハ人

權ナリ

一 近時佛蘭西ニ一例アリ巴里ノ人「アルセリー」
ニテ土地ノ引渡スヘキ契約ヲ為シタリ然レ
其契約ニ引渡スヘキ土地ヲ確定セス只「アル
セリー」ノ山ノ手ニテ土地千坪ヲ渡スヘトノ
「ナリ」レカ後ニ其人分散トナリ終ニ其義務
ヲ行フ「能ハス」依テ被告人ノ住所ヘ訴ヘ裁
判トナリタリ是亦土地ニ關スル「ナレ」人權
ニ屬スレハナリ

一 動産ノ物件ニ付テハ何レノ裁判所ニ呼出ス

ノ類是人權ト物權ト相混スルモノナリ

一 右ノニ權ヲ混スル片ハ原告人ノ撰ミニ任カ
セ物件所在ノ地ノ裁判所ニテモ又ハ被告人
住所ノ裁判所ニテモ之ヲ呼出シテ妨ケナシ
トス

一 賣買ニ於テハ約定シタル時即チ其所有ノ權
甲ヨリ乙ニ移ルモノトス故ニ物ヲ受取ラズ
ト雖モ買主即チ其物ノ所有主ナリ然レモ其
物ノ定マラサル片ハ約定ノミニテ其所有主
ト云テ得サルナリ

七年四月十九日

第二

一 抑人権ト物権トヲ分クハ裁判上都合ノ為メニ設ケタルモノナリ

一 總テ義務ニ關スル訴ハ人権ナリ其義務ハ并約ヨリ生スルモ之レアリ法律上ヨリ生スルモ之レアリ

一 總テ物ニ對スル訴ハ物権ナリ其物権ハ此物ヲ已レノ所有ト争フ等ヨリ生スルモノヨリ其目的物ニ在ルユヘ物件所在ノ裁判所ニ於テ裁判スルナリ

一 不動産ニ限り必ス其現在ノ土地ニ於テ裁判

ス不動産ハ身ニ附屬スルモノトス故ニ被告人ノ裁判所ニ於テス

一 人権物権ノ區別ヲ為シ又其一ケノ裁判所ニ定ルコトニ付テハ緊要ノコトアリ左ノ如シ

一 原告人ノ多數ナルキハ債主分派ノ場ニ至リ各其望ヲ充ツルコト能ハサルモノナリ譬へハ數人名々三百万兩ヲ貸シタルモノアリ然ルニ數ヶ所ニテ之ヲ裁判スルキハ一人ハ十ヶ七八分ヲ取ルコトヲ得又一人ハ十ノ二三分ヲ得ルコト能ハス必ス不公平ヲ生ス故ニ之ヲ一ケ

所ニテ裁判シ以テ其義務ノ高ニ循ヒ分
派ノ公平ヲ得ルヲ要スル所以ナリ

一物ノ定マリタル約束ノ時譬へハ何地ノ何番
何号ノ家ト確定セル片ハ則チ物權ニ屬ス故
ニ其類ハ裁判權ヲ以テ其物ヲ差押へ取揚ル
ヲ得ル家資分散ノ時其財産中ニ加フヲ得
ス

一物ノ定マラサル約束ノ片ハ物ナキカ如シ故
ニ其違約ニ付損害ヲ生スルヲアレハ其償
ヲ出サシムト雖モ家資分散ノ片ハ其財産中

ニ加ヘラル可シ

一譬へハ米ヲ人ニ賣ルニ買主ニテ其米ニ符号
ヲ記シタルノミニテ買主ノ未タ受取ラサル
間ニ賣主分散トナリタル片ハ即チ買主ニテ
之ヲ引取ルヲ得ル分散ノ時其財産中ニ
ハ加フルヲ得ス

一又既ニ米ヲ買ヒタリト雖モ其米ニ符号ヲ記
セサル中賣リ主分散トナリタル片ハ買入人
之ヲ引取ルヲ得ス分散ノ時其財産中ニ加
ヘラレ分派ヲ受ルナリ

一人権ニテ訴訟起ル物權ノコトニ涉ル共其訴訟ヲ甲ノ裁判所ヨリ乙ノ裁判所ニ移スコトナシ

タトヘハ此地ニテ空米ヲ賣ルモノアリ此地ノ裁判所ニテ取調ヘタルニ償フヘキ所有物ナシ却テ彼地ニハ土地アリ家屋アリ此時ハ此地ノ裁判所ヨリ言渡シタル書付ヲ原告人彼地ヘ持参シ使吏ノ手ヲ經テ時日ヲ定メ引渡スコトヲ命ス万一其時日ニ引渡ササル時ハ彼地ノ使吏ノ權ヲ以テ取揚ルヲ得ル

ナリ

一若レ同上ノ場合ニ於テ米ヲ渡コトヲ得サル時双方承諾ノ上家屋地所等ヲ渡スコトヲ得ヘン其時ハ證文ノ書替マテニテ濟ムナリ即チ之レヲ義務ノ更改ト云民法千二百七十一條以下見合

一万一其人分散ニナラントスルキハ證文ヲ書替ヘ其ノ義務ノ更改ヲ為スコトヲ得ス

一本文其物件ノ上ニ「原告人ノ撰ミニ任セ」ト云コトヲ補フ可シ是レ亦々律文ノ足ラサル所ト云フ

一第五十九條第三項、テハ呼出しノ正則ナリ
此第四項ヨリ以下ハ呼出しノ變則ナリ
會社ノコトテハ其ノ會社ノ存續スル時間之ヲ
設ケタル地ノ裁判所ニ呼出サル可シ
一會社ノ事ニ付テハ人權ニカ、ルト雖モ必ス
其會所ノアル地ニ於テ裁判ス
會社ニ其會所ノ定マラサルモノアリ此時ハ
其社中ノ者ノ住所ニ裁判所ニ於テス是レ人
權ノ正則ニ循フナリ
又本文存續スル時間トアリテ既ニ存價セサ

ル日ニ至リテハ前條ト同一ナリ
遺物相續ノコトニ付其ノ分派ニ至ル迄ノ時間
其相續人等ノ互ニ為ス訴訟及ヒ分派ノ前死
者ノ債主ヨリ為シタル訴訟並ニ分派ノ裁判言
渡ノ確定ニ至ル迄ノ時間遺囑ノ贈遺ヲ執行
フコトヲ為メノ訴訟ニ付テハ其ノ遺物相續ヲ
為ス可キ地ノ裁判所ニ呼出サル可シ
一遺物相續ノ事ニ付テ其未タ分派セサル間ハ
死者ノ住所ノ裁判所ニ於テス此レ人權ノ本
則ト異ナリ既ニ分派スレハ否ラズ

一 本文ニ分派スル迄ノ時間トアリ相續人幾人モアルキハ此儘ニテ可ナリ其一人ノキハ差支アル文ナリ然レモ相續人一人ナルキハ右ノ時間ヲ待ツニ及ハス直ニ其相續人ノ住所裁判所ニ於テスルナリ

一 相續人數人アルキハ協議セシムル為ノ又後日混乱ノ起ラヌ為メニ其分派ニ至ル迄ノ時日ヲ延ハシ其死者ノ住所ノ裁判所ニ於テス
一人ノ時ハ協議ニ及ハス故ニ時間ヲ待タサ

ルナリ

然レモ善ク此一節ニ注意ス可キナリ死者他人ヨリ預リ置クモノアルキハ其預ケ人ヨリ取返ス為メノ訴ハ本則ニ循フナリ

一 此一節三段ナリ第一他人ヨリ相續人ニ對スル訴訟第二死者ノ債主ヨリ相續人ニ對スル訴訟第三遺囑ノ贈遺ヲ執行フ為メノ訴訟ナリ

家資分散ノコトニ付テハ分散人住所ノ裁判所ニ呼出サルヘシ

一家資分散トハ 原語 トハ商人ノ上ニテ云フ通
常人ノ身代限リハ家資分散ト云ハス 財産
抛弃ト云フコト 原語 民法千二百六十五
条以下見合
一商人家資分散ト決スレハ管財人トサシ 原語 ト
定メ其者ニテ夫々財産ノ處置ヲ為ス 故ニ
債主ヨリ管財人ニ掛リ訴訟ス然ルハ
管財人ノ住所ニ呼出ス可キ筈ナレト 變則
ニテ其分散人ノ住所ノ裁判所ニ呼出ス
ナリ
右管財人ハ債主ニテ撰ムナリ

一分散ヲナスハ一時ニ債主ノ集マルコトハ出
来サルナリ故ニ商法裁判所ニテ假リノ管
財人ヲ申付ケ置キ債主皆集マリタル上債
主協議シテ本管財人ヲ立ツ
常人財産抛弃ハ管財人ヲ立ルコトナシ
一家資分散ハ人ニ金高ヲ拂フコトヲ止メタル
以後ヲ云 商法四百三十七條見合
一財産抛弃ハ已レノ所有スル諸般ノ財産ヲ
悉ク義務ヲ得ヘキ債主ニ任カスルコトヲ云
民法千二百六十五條見合

一家資分散ニ付民事ニ關係シタル訴アル代
ハ民事裁判所ニテ之ヲ裁判ス其債主ハ其
裁判言渡書ヲ以テ管財人ニ遣ハシ分派ヲ

要ム

第三

保證^{四月二十日}ノ事ニ付テハ主タル訴訟ヲ為シタル裁

判所ニ呼出サル可シ

一此條ハ甚タ六ヶ敷キ所口ナリ先ツ保證^{カシ}ノ

事柄ヲ説カン

一保證トハ甲ト乙ト訴訟ヲナスニ甲ハ乙ニ

勝^{カシ}タントスルニ付キ丙ノ一人ヲ頼ミ防禦

ヲナスヲ云フ

タトヘハ甲ニテ乙ヨリ金ヲ借ル代ハ債主

アリ負債主アリソノ時ニ當リ別ニ請人ア

後日債主ヨリ負債主ニ金ノ返濟ヲ求ムル

トニヨリ訴訟トナル如此代ハ負債主必テ

ス自カラ防クヘシ請人ヲ頼ミ防クノ理ナ

シ然ルニ債主ヨリ請人ニ對シテ債ヲ求ム

ル代ニ至リテハ請人ヨリ負債主ニ對シ防

禦ヲ求ムルノ理アリ之レ即チ茲ニ謂フ所

ノ保證ナリ

一債主東京ニアリ請人モ亦東京ニアリ負債
主ハ西京ニアリソノ時債主ニテ便利ノ為
メ請人ヲ相手取りテ訴フルモハ請人ニテ
ハ負債主ヲ呼ハサルヲ得ス是ニ於テ負債
主ハ^保證ノ為メ東京裁判所ニ呼出サル可
シ
一本則ナレハ原告人ハ負債主ノ西京ニ在ル
ヲ以テ西京ノ裁判所ニ訴フ可キヲナレモ
其主タル訴訟ハ債主ヨリ請人ヲ既ニ東京
ニ訴ヘタルニ甘負債主ハ東京ニ呼出サル

可シ

一負債主ヲ訴フルハ本則ナレモ請人ヲ訴ル
モ負債主ヲ訴フルモ債主ノ便利ニマカス
一此條ハ債主ノ為メニ甚タ便利ニシテ負債
主ニハ不便利ナリト雖モ又負債主ノ便利
ナル為メニ第百八十一條ニ補足スルモノ
アリ
一前文ニ云フ如キ訴訟ニ於テ債主ニテ奸計
ヲ以テ東京ニアル請人ヲ訴ヘタルモ負債
主右奸計ヲ覺リ且ソノ證アルモハ負債主

シ
ノ住所ノ裁判所へ債主ヲ呼出スヲ得可

一タトヘハ西京ノ負債主ハ富人ナリ故ニ請
人ヲ訴フルニ及ハス然ルニ東京ノ請人ヲ
訴フルハ何カ奸計アリトス右ノ場合ニ於
テハ其證アルヲ以テ負債主ノ住所ノ裁判
所へ債主ヲ呼出スヲ得ル

一二人ニテ同シク借リタルモノアリ債主ノ
撰ニテ甲ノ住所ノ裁判所ニ訴フル代ハ乙
ノ一人モ其裁判所へ出サルヲ得ス

一又一例ヲ舉ケン甲ニテ乙ノ家ヲ買ヒテ其
家ノ所有主ナリト思フ然ルニ丙ノ一人来
リテ我レ其家ノ所有主ナリト云ヒ其取戻
シヲ訴フ此ノ訴ハ物權ナルニヨリ其物件
所在ノ地ノ裁判所ニ訴フナリ其時「買主」一
人ニテ勝タハ宜シ若シ一人ニテ勝タサル
ノ見込アル代ハ「賣主」ヲ其裁判所ニ呼寄セ
防禦ヲ為サシム之レ保証ナリ其時「賣主」
「買主」ニ對シ其訴ヲ救フヲ得サル代ハ買主
ノ負トナリ其買ヒタル家ヲ丙ノ一人ニ渡

ス。トテ言渡サル其時ニ買主ヨリ賣主ヲ相
手取り其價ノ取戻ヲ訴フレハ賣主其代價
ヲ返還スヘキノ言渡ヲ受ク之レニテ下裁
判濟ムナリ然ルニ若シ其裁判ノ節買主其
價ノ取戻シヲ願ハスシテ後日之レヲ訴フ
氏ハ人權ナルニ付其本則ニヨリ賣主住所
ノ裁判所へ呼出サルヘシ

一前文ノ場合ニ於テ買主ニテ保證ノ為メ賣
主ヲ呼ハスシテ裁判ヲ受ルハ無用心ノ甚
シキナリ萬一其訴ニ負ケタル後賣主ニテ

何故我ヲ呼ハサルヤ我レニ證書アリ我ヲ

呼ヘハ負ケサルモノヲ今ニ至リテハ我ハ

関セスト云フ氏ハ此訴訟ハソレ切リニテ

濟ムナリ此ノ如キ一ハ決シテ實地ニ於テ

法ノ如ク裁判ス如ク

證書ノ如ク執行フニ付キ別段住所ヲ擇ミ

タル氏ハ民法第百十一條ニ循ヒ別段擇ミタ

ル住所ノ裁判所又ハ被告人ノ真ノ住所ノ裁

判所ニ呼出サル可シ

一證書ノ如ク執行フニ付キトハ譯ノ誤リナ

リ條約等ノ事件ヲ執行フコト付ト改ム可
シ

一住所ヲ撰ムトハ双方同意ニヨリテ撰ムコト
アリ又原告人ノ為メニ擇ムコトアリ被告人
ノ為メニ擇ムコトアリ此條ニテハ原告人ノ
便利ノ為メニ被告人ノ住所ヲ擇ムコトニ就
テ云フ之レ本則ナリ

一又變則アリ若シ被告人ノ便利ノ為メニ擇
ムコトハ原告人ニテ他ノ裁判所へ訴出スル
コトヲ得ス

一原告人ノ為メニ擇ミタルコトハ動カス可カ
ラサルモノトセス被告人ノ為メニ擇ミタ
ルモノハ動カス可カラサルモノトス

一又原告被告双方ノ為メ何レノ便利ナルヤ
契約書ノ文意不分明ナルコトハ必ラス被告
人便利ノ方ニ擇フ可シ之レ法律申明ノ本

意ナリ
民法千百六十二條見合

第四

四月廿六日

第六十條裁判所ニ管シタル官吏

代書師使吏
等ヲ云フ

裁判所費用ノ償戻ヲ得ントスルコトハ以前其
費用ノ生シタル裁判所ニ之ヲ出訴ス可シ

一是レ第五十九條ノツ、キニテ本則ニ違ヒ
タル一則ヲ舉クルナリ

一裁判所ニ管シタル官吏トハ使吏代書人ノ
ノ外書記官モ此中ニアリ但シ代言人ハ関
セス

一代書人ハ重ニ原告人トナルツノ譯ハ頼マ
レタル節入費ヲ請取置クト雖モ多クハ不
足スルコアル故ナリ故ニ使吏代書師等ノ
原告人トナル方ヨリ説クナリ

一通例ナレハ即チ被告人ヲ其住所ノ裁判所

へ呼出ス可キナレ凡之レハツノ費用ノ生
シタル裁判所へ呼出ス即チ變則ナリ

一然レ凡能ク注意スヘシ人權ニ付テノ訴訟
ハ必ラス被告人ノ裁判所へ訴フ被告人ノ
裁判所ハ則チ費用ノ生シタル裁判所ナレ
ハ自ツカラ正則ニ循フ譯ナリ若シ物權ニ
付キタル訴訟ナレハ則チ本條ノ規則ニ循
フ即チ變則ナリ

一又代書師等ノ被告人ニナルモ云ハシ即
チ訴訟入費ヲ取りスキタル時ナリ

一代書師ハ裁判所ノ權限アリテ他ニ行クコ
能ハス故ニ代書師被告人ニナルキハ則チ
ソノ奉仕ノ裁判所ト呼出サル、ナリ何ト
ナレハ奉仕ノ裁判所ハ即チ本人ノ住所ニ
テ費用ノ生シタル裁判所ニ訴フルコトナレ
ハ之レ即チ正則ナリ

一其裁判所へ訴ルノ故ハソノ訴訟事件ヲ取
扱ヒテ能ク其事柄ノ分明ナレハナリ

一若シ代書師免職シテ他ニ住所ヲ占ムル後
訴訟ノ起ルキハ即チ以前奉仕ノ裁判所へ

呼出タサル、ナリ

一若シソノ代書師死去セシ後訴訟起リタル
節ソノ子孫遺物相續分派ノ濟ミタルキハ
正則ナレハソノ子孫ノ各所ニ住スル裁判
所へ訴訟スヘキナレバ代書師ニ付キタル
訴訟ニハ即チソノ父ノ奉仕ノ地即チ裁判
費用ノ生シタル裁判所へ訴フルナリ
此ノ如ク變則多ケレバ其變則中正則ノ
モ亦多シ

一第一ニ裁判費用ノ生シタル裁判所ニ訴フ

ル所以ハ其道理ヲ能ク知了シ居ルニハ其
裁判所へ訴フルコトナリ

一代書師謝金目録ノ常例アリト雖モ別段六
ヶ敷訴訟ナレハ幾分ノ謝金ヲ増シ與ヘル
コトアリ此等モ此裁判所ニテ能ク其事柄ヲ
知り居ル故ナリ併シ此ノ理ハ拙劣ト思フ
ナリ何トナレハ其取調以前ノ裁判官ニシ
テ能ク其顛末ヲ知りタルモノハ宜シケレ
ル必ラス前ノ掛リノ裁判官トハ定メ難シ
殊ニ巴理ノ如キハ別ニ裁判費用等ノ事件

ノミチ取調フル為メノ裁判官アレハナリ
一一局ニテ成レル所ノ裁判所ナレハ我カ言
ノ如キノミナラサルモノモアル可シト雖
モ裁判官ハ昇進シテ各所へ轉シ又退職ス
ルモノアレハナリ
一又年月ヲ過キテ訴フルニ前ノ掛リ裁判官
ハ在職スルヤ否ラスヤ知ルヘカラス
一タトヒ此ノ如キヲ訴フルトモ訴人ノ云フ
コトヲ直ニ聴クコトニアラス其一件書類ヲ以
テソノ費用ノ額ヲ定ムルコトニハ何レノ處

ニ訴出スル所宜シキニアラスヤ
故ニ前ノ掛リ裁判所へ訴フルノ説ハ立タ
サルトナリ

否ラス若シ代書師等不正ノイヲ爲ス中ハ
ソノ裁判官ニ於テハ督責ノ権アリ又免職
ヲモナスノ権アリ故ニソノ裁判所へ訴フ
ル譯ナリ

然リト虽モソノ代書師等ノ免職又ハ死去
スルトアレハ罰スルトハ出来サルナリ故
ニ以上道理ト云ヒタルモノ皆不道理也

一因テ考フルニソノ謝金ヲ取過キタル分ハ
何レノ裁判所ニテモ取戻ストハ出来ルナ
リ故ニ本條中償戻ヲ得ント欲スル時ハソ
下へ其職務ヲ行フノ間ノ一語ヲ加ヘサル
可カラス

一此條ハ立法官ニテ代書師等ノ幣ヲ矯ムレ
為メニ立タルモノナレ其免職又ハ死去
等ノ節ハ為ス可カラサルニ至レリ

一此條ハ専ラ代書師等ノ被告人トナル所
為メニ設ケタリ

一元来法律ハ正則ニ依ルヲ主トス變則ハ少
ナキ方宜シ

一代書師ノ原告人トナル氏ハ必ラス變則ト
ナル

一巴里ニテハ此ノ如キ訴訟ノ為メニ別局ヲ
立ツルハ古ヘ此類甚タ多シ即今ハ代書師
會社アリテ大抵ハ右ノ會社ニテ調ヘ濟ミ
トナルユヘニ甚タ少ナシ

一昨年珍ラレキ訴訟アリ代書師ニテ八千フ
ランクノ謝金ヲ取ラントセレトアリ自分

教ニモ相談アリタリ頼ミタル人ハ四千フ
ランクヲ與ヘレト云ヒタリ然ルニ會社並ニ
裁判官ナトノ見込ニテ六千フランク遣ル
トトナレリ

一元来謝金目錄定制ノ外ニ別段ノ謝礼金ヲ
遣ラサル可カラス若シ常例ノ外ニ遣ラス
ト云フ氏ハ裁判官ニテ適宜ニ謝礼ヲ遣ル
可シト言渡スナリ右ハ夫々入費又ハ時間
ヲモ費ス故ヘナリ然レ氏弊アリ良法ニア
ラス

一之レニ及レテ、代言人ハ自ラ謝金ヲ求ムル
コトヲ得ス。頼ミタル人ノ贈與スルヲ以テ足
リトスルノ外ナシ。故ニ其謝金多クテモ、辞
セス。又贈与セサルトモ、訴フルコトヲ得ス。
一 代言人ハ訴訟ニ付キ、頼ムモノ、本心ヨリ
贈ルモノハ、請ルコトヲ得ヘシト雖モ、謝金何
程出スヘシト預シメ約束スルコトハ禁スル
ナリ。

一 別段ノ謝礼ハ使吏ニハ贈ルニ及ハス。但シ
過分ニ入費ヲ取り居ルコトアレハ訴訟トナ

ルナリ

一 事ニ寄リ別段カラ盡スコトアリソノ時ハ別
段ノ謝礼ノアルコトモアリ。

一 代言人ヲ頼ミタリトテ贈ルヘキ金ナキハ
何程贈ルヘシト証書ヲ出スコトアリ。後ニ右
ノ金ノ贈ラストモ其証書ヲ以テ訴フルコ
ト能ハス。

一 本条外ニ爰則トナルコトヲ更ニ述ヘントス。
一 民生証書ニ有心又ハ過誤ニテ誤字書損
等アルコトアリソノ取調フコトヲ訴フルニハ

變則トナルナリ其訴ハ我子タルヲ認ムル
カ又ハ夫婦離縁等ノ身分ニ關スルノ訴ト
ハ異ナリ是レ全ク証書ノ誤リノミヲ訴フ
ル片ノヲナリ

一右ハ人ニ對スル訴ニアラス書類ニ對スル
ノ訴ナリ

一民生証書ノ誤リニ付テハ自カラ言ヒ誤
マリレモ知ルヘカラス故ニ此ノ如キ訟ハ
被告人アルヲナリ

一右ノ訴ヘニハ呼出狀ナレ使吏ノ取次ニテ

裁判所へ願書ヲ出スレテ 檢事ニ回ハス
ソノ時始メテ檢事ハ被告人トナルナリ

一此ノ訴訟ハ何レノ裁判所へ差出スヘキヤ
ヲ法律ニ記載セスト雖モ最初民生証書ヲ
記載セシ裁判所ニ差出スヲナリ

一通常至急吟味ヲ乞フ片モ願書ヲ出スナリ
其時ハ裁判所長ヨリ許諾返書ヲ出ス民
生証書ノ願書ニ付テハ返書ヲ出スヲナレ
何トナレハ其事柄ヲ必ス取調サルヲ得サ
レハナリ

一右ニ付テ道理アリ通常至急吟味ハ許スト
許サ、ルトハ裁判官其緩急ヲ見計フア
リ此民生証書取調ノ願ニ於テハ即チ裁判
ヲ願フナリ之レヲ取揚ケサレハ裁判ヲ拒
ムニ属ス

一民法第九十九条ニハ唯其所轄ノ裁判所ト
記載セリ夫レニテハ分明ナラス必ラスソ
ノ書類ノアル裁判所へ訴出ツヘシト改正
ス可シ事柄ヨリ親類等ニ被告人ノアル
トモアリ 民法第百条ヲ見合スヘシ

ソノ被告人アルト雖モ被告人ノ裁判所
へ、出テス

第六十一条 呼出状ニハ左件ヲ記スヘシ
第一年月日原告人ノ姓名職業住所其者ニ代
ハルヘキ代書師ヲ任シタル事及ヒ原告人其
代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事
但シ代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタルトナ
キ時ハ其旨ヲ記スヘシ
一呼出状ニ年月日ヲ記スト雖モ何曜日トハ
記セス

何ノ爲メニ日ヲ記スト言ヘハ日ヲ記セサ
レハ呼出状ノ日限分明ナラス右ハ裁日ノ
時間ニ裁判所ニ出ル云々ノトアルニハナ
リ

一 礼式ノ日ハ勿論日曜日ニハ呼出状ヲ出ス
トヲ得ス但レ至急ノトニ付テハ願書ヲ出
シ許レテ受クヘシ

一 使吏ノ呼出状ヲ書ク時何月何日何某ノ願
ニ依テト記ス被告人一見シテ原告人何某
ヲ呼出シテ何日ニ裁判所ニ出ツルトヲ承

知スルナリ

一 佛ノ法ニテ代書師ナレニハ訴フルトヲ得
ス故ニ代書師ハ何某ト記ス

一 此呼出状ヲ遣レハ被告人ヨリ返事ヲ為ス
ニ呼出状ニ別段住所ヲ擇ミタル事ヲ言セ
サルハ原告人ノ本住所ノ代書師ノ宅ニ
送ル

一本住所ヘ往復スル片ハ遠隔ノ地等ニ不便
利ナリ故ニ右等ハ別段ソノ地ノ代書師ノ
家ニ別段住所ヲ撰ムトアリ

然レモ原告人ニテ必ラス其家ニ寓スルニ
アラス

一 本文住所ヲ擇ム事トハ代書人某ノ家ニ住
居シタル旨ヲ記載スルナリ
但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ擇ミタル
時何區何某ノ家ノ住所ヲ定メルナリ
載スルナリ

第五

四月三十日

第二 呼出状ヲ送達スル使吏ノ姓名住居授
任状設告人ノ姓名住居並ニ呼出状ノ副本ヲ
別ニ受取ルヘキ者アル時ハ其者ノ姓名ヲ

記スヘシ

一 前項ニ原告人ノナリヲ記スノミニテハ呼出ノ
効ナレ依テ此項ニ使吏ノナリヲ記シ又被告人ノ
ナリヲ記シ又其受取人ノナリヲ記シテ始テ其効
ヲ生スルナリ

一 被告人ノ姓名云々右ハ知ルヲ得ヘキニ於テ
ハ姓名トモニ記載スト雖モ姓名ノミニテ足
レリトス職業等記スルニ及ハス
一 別ニ受取ルヘキ云々呼出状ハナルヘキ云々
本人ニ渡スヘキナリ其本人不在ノ片ハ本文

ノ通り親屬從者近隣ノ者ニ渡シ置クテ早
ルナリ第六十八條見合

本人ニ呼出状ヲ渡ステハ必ス其家ニ
ルニ及ハス途中ト雖氏之ヲ渡シテ
ス

然レモ裁判所ニ在ル片又ハ議院ニ出席時
又ハ寺院ニテ説教中等公礼儀式ノ場ニテハ
右ノ状ヲ渡ステナレ
其公礼儀式中ニ右状ヲ渡サレ譯ハニ説ア
リ一ニハ右ノ状ヲ渡ス為メニ傍人ノ驚駭ヲ醸

レ満坐妨害ヲナセハナリ

ニニハ右等ノ節受取ルモノハ讀ムテモ出
来ス直チニ懷中シテ遂ニ忘却スルニ至ル
テアレハナリ

一使吏其家ニ行キテモ本人不在ナルキハ其親
族又ハ僕婢ニテモ居合セタル者ニ渡置テヲ
得ル

一右ノ場合ニ於テ法律上ニテ了切ヲ
テナレト雖モ幼者ニハ渡置クテヲ
若シ幼者ニ渡ステアレハ其使吏ニ罰ア

其ノ庸ヲ辨スヘキ程ノモノナレハ婦女子
ヲモ之ヲ渡シテ差支ナシ

右親族僕婢ニ渡シタル片ハ使吏ヨリ

取ヲ請ハス又其ノ親族婢僕モ受取

スニ及ハス又被告人自カラ受取タル片受取

書ヲ出スニ及ハス但シ親族僕婢ノ受取リタ

ル片ハ本文ノ通り使吏自ラ其呼出状ノ正副

本ニ其ノ者ノ姓名ヲ記入スルナリ

原未使吏ハ奉職ノ始メ誓ヲ為シタル官吏ニ

テ右等職務ノ取扱上ニ於テ詐偽ヲナサ、ル

モノトス故ニ受取ノ証ヲ他人ニ請ハストニ自身

ノ記入ニテ十分ノ証アリトス若シ其書面ニ詐偽

ヲ為シタル時他人ヨリ訴ヘ出テ其事實詐偽

ノ証出ル迄ハ真正ノ者トス其果シテ詐ニ

極マル片ハ勿論其嚴罰ヲ受クルコトナリ

若シ受取リタル者親族僕婢同居ノ者ニテ其

状ヲ紛失セシムル片ハ使吏ノ罪ニアラス

ノ家事不取締ニ歸スルナリ

被告人其呼出ヲ知ラスレテ裁判所ニ出

ル片ハ欠席裁判トナル然レ片其裁判ニ不服

ル片ハ右行違フ故ニ因リ故障申立ルヲ得ル
故ニ補ヒノ出来サルモノトセス
若シ呼出状ヲ渡スニ其者ヨリ受取ヲ請フテ
始テ之ヲ託トナス片ハ必スシモ使テ感掌
ヲ待タスレテ可ナリ然レモ其状ヲ持行キタル片
被告人ノ處ニ誰レモ居合セサルヲ以テ或ハ
之ヲ避ケテ故ラニ不在スルヲアリ然ル片ハ
何時マテモ裁判ヲ得ル能ハス原告人ニ於テ
迷惑少カラス
又爰ニ一説アリ別段貸錢ヲ高クシ郵便ニ托

レ本人ニ手渡シテ他人ニ渡サヌ法アリ呼
出状モ此ノ取扱ニナレタラハ然ラント然
モ亦不都合アリ被告人其ノ呼出状ヲ
得テ裁判所ニ出サルモノアリ裁判所ニテ
之ヲ詰問スルニ書状ヲ得タルハ呼出状ヲ
ラス他ヨリ金ヲ送りタルナリ請待ヲ受ケ
タルナリナト言ヒ紛ラスコトアリテ其
書ヲ検査シタルモノニ非ラサルハ其有
區別スルヲ能ハス甚タ困難ヲ生ス
故ニ一種ノ權アルモノニテ擔當シ過チアレハ

必ス罰ヲ受ルモノナカルヘカラス是即チ使吏
ヲ置ク所以ナリ

又被告人及ヒ一家不在ル片ハ必ス接近ノ隣
人ニ渡シ置クヲ得ル其近隣ト云フ樓上
ノ始メ四隣ヲ近隣ト云フニ階家アル片ハ下
タニ住スルモノヲ呼出スニ樓上ハ尤モ近隣ナ
リ

其近隣ノ人受取リタル片ハ其使吏其近隣ノ
者ヘ責ヲ歸スル為メニ其受取ノ誰アルコ
ヲ要ス詳ニ第六十八條ニ見ヘタリ

法律ニ於テハ一斬ヲ隔テタル家ニ渡スヘカ
ラスト云ハサレ共使吏ニテ其隔リタル家ニハ
之ヲ渡サス

- 一又近隣ト雖モ醉人又ハ平生不行跡ニテ頼ル
ヘカラサルモノハ之ヲ渡スコトナシ
- 一頼ルヘキ人ニ之レヲ渡スモ其ノ者正木ニ
其姓名ヲ手署スルナリ
- 一若シ之ニ姓名ヲ手署スルコトヲ得ス又之ヲ
拒ムモ使吏邑長副邑長ニ渡シ其ノ捺印ヲ
受ルナリ第六十八條ニ詳カ也

一然レ此第六十九條第八項ノ場合ハ蘭西國內
ニ分明ナル住所アラサル者ヲ呼出スルハ此
例ヲ用フヘカラス
一其時ハ同項ニ記載シタル通り其訴
裁判所ノ門庭ニ貼付スルナリ

第三 訴訟ノ目的及ヒ訴訟ヲ為ス憑據ノ簡
畧ナル弁明

一訴訟トナルヘキ目的何等ノ事ト云フヲ記ス
不動産取戻シノ訴ナラハ取戻ス所ノ目的又
所有ノ權ノ訴アラハ所有ノ權アル目的ヲ巨細ニ記

スヘシ

右訴訟ニ付此ノ丁ハ如何ト問フニアラス此事ヲ
斯ノ如ク為スヘシト申遣スナリ

又唯金ヲ貸シタルトハカリヒテハ其事分明
ナラス何ノ為メノ貸金トテ又ハ何ヲ賣リタ
ル金トカ又ハ家賃ノ滞リトカ云フ其緣由ヲ
記ス

又其私ノ証書タルキハ其証書ヲ以テ證據トシ
不可キ旨ヲ記ス可シ萬一證據トナル可キ私
ノ文書ナキハ人ヲ以テ証トナス丁ヲ記ス

可シ

公正ノ証書ハ此等ノ辨解ヲ用ヒストモ十分ナリ
右等ノ丁ヲ記載スル所以ハ被告人ニテ之ヲ
見シテソノ訴訟ノ相當ト不相當トヲ認メテ
其覺悟ヲナス為メナリ

不動産ナレハ物件所在ノ地名ヲ記ス字アル
ハ其字ヲモ記ス可シ

右ニテモ不足ナリ其隣地ヲモ記ス

町名番號アルハ亦之ヲ記ス時トシテ此ノ如ク
詳細ナルニ及ハス其一團ヲナシタル不動産ノ

項原告人ヨリ訴ヘタルモノヲ使吏ニテ其期
限ヲ怠リテ呼出状ヲ出サレ如キノ類原告
人ノ損失莫大ナルヨリ其費使吏ニ歸シテ事
此ニ及フナリ

公禮儀式等ノ節ニ呼出状ヲ送達スルハ金
効ナキニハアラス使吏ニテ「五フランク」ヨリ
百「フランク」マテノ罰金ヲ言渡サルナリ
使吏ハ巴里ノ下等裁判所中ニアルモノヲ合
セテ六十人トス當時ハ其負ヲ増スモ許リ
難シ但シ區裁判所ノ使吏ハ此中ニ算入セ

ス

法律ニ効ナシト記セサルハ其呼出状ニ於テ
効ナシトセス其過テハ使吏其責ニ任シ罰ヲ
受タルナリ使吏ソレ慎マサル可クヤ故
ニ日本ニ於テ此使吏ヲ置クニ温厚篤實ニ
シテ且才アリテ家資富有ノモノヲ擇
可シ

一佛ニテ使吏ハ身元金ヲ大藏省ニ預ケシ上免
許状ヲ得然ル後ニ非サレハ使吏ノ務ヲ
為ス丁ヲ得ス之レ定則ナリ

第六 ^{五月五日} 第十二條

使吏ヲシテ呼出状ヲ送達セシム
ル謝金ハ一日分餘ノ額ヲ拂フ可カラス

一使吏呼出状ヲ送達スルニ其裁判所所在ノ

「アル州」中ノ遠キ所マテ行クコトアルトモ
ソノ送達ノ旅費ハ一日分ノ外之ヲ拂フ
コトナシ

佛ニテ以前ハ二日モカ、ルコトアレ共近時ハ
往來ノ便大ニ関ケタルニヨリ二日モカ、ル
コトナシ假令二日カ、ルコトアレトモ一日分ヨ

リ外其旅費ヲ拂フナシ

一裁判所ヨリ被告人ノ住所マテ五「キロメートル」

迄ハ其旅費ヲ拂フナシ

五「キロメートル」ヨリ十「キロメートル」迄ハ四

「フラン」ヲ拂フ

十「キロメートル」以上ハ五「キロメートル」毎

二「フラン」ニ増ス

増シテ「二十フラン」迄ニ止マル是即チ一日

分ナリ二十「フラン」ハ五十「キロメートル」ニ當ル

若シ二日モカル時ハ使吏自費ヨテ之ヲ辨ス

佛ニテハ往來ノ便ナルユヘ其旅費二十「フラン

」ニ止マルトモ使吏ノ損トナル「ナシ」其迄

キ處ニテハ随分羨餘モ之「アル」ユヘ自ラ乘

除スルナリ

右ハ裁判入費目録中ニ詳カナリ

第六十三條 裁判所ノ上席人ヨリ允許ヲ得サ

レハ祭日ニ呼出状ヲ送達ス可カラス

一祭日ニ呼出状ヲ出スニ効ナキニアラス使吏

ニ過チアレハ其責トナル「前」ニ説キタリ

第六十四條 物推ノミニ管ニタル訴訟又ハ人

権ハ物權ト相混シタル事ニ付テハ訴訟ノ時ハ
呼出狀ニ不動産ノ種類其所在ノ邑ノ名及
ビ知ルヲ得トキニ於テハ其邑中不動産所在
ノ部分並ニ其不動産ニ隣レル地ノ中少ナクト
モ二箇所ヲ記ス可シ但シ一團ヲ為シタル不
動産ニ管シタル時ハ其名ト其所在ノ地ヲ記
スル丁ノミヲ以テ足レリトス若シ此等ノ事ヲ
記セサル時ハ其呼出狀ヲ取消ス可シ
此條土地ヲ記スル丁ハ第六十一條ノ第三ノ
處ニ説キタリ故ニ此ニ贅セス

一右ノ効ナキ呼出狀ニ付被告人ノ出席セサル
時裁判官ニテ其本書ヲ檢シテ其誤アルヲ知
レハ欠席裁判ヲ為サレルナリ
若シ裁判官ニテ心付カス欠席裁判ヲ為スト
アリテ後ニ被告人ヨリ故障ヲ申立ルキハ其
裁判入費ハ一切使吏ヨリ出スナリ
再度ノ裁判ニ被告人ノ負ケトナリタルトモ
初メノ欠席裁判ノ入費ハ使吏ヨリ出ストナリ
右誤書等ノ場合ニ付大切ナル二件アリ
裁判官呼出狀ヲ檢シ欠誤アル時裁判ヲ為サ

サレハ其裁判ヲ拒ムニ非ラス其欠誤ナレバ
以テ其事件ヲ了解スルヲ能ハサル故裁判ハ
取掛ルヲ能ハスト云フ意ナリ是其一ナリ
又呼出状ノ不都合ハ大抵使吏ノ過チニアリ其
罰ハ「ハフラン」位ノ罰金ニテ濟ム「ア」共事
柄ニヨリ時ニヨリテハ其償ヲ為ス為メニ百萬
ラレケレノ出金ニ及フ「ア」リ之カ為メニ其株式ヲ
失ヒ其身代ヲ抛棄シテモ足ラサルニ至ル「ア」
アリ是其二ナリ
譬ハ「ア」フレスクリアン「ア」ノ期將ニ盡ニトスル

中ニ算入スルナリ

右ノ八日ハ通常ノ本則ナリ至急ノ節ハ原告
人其期限ヲ縮メテ呼出ス「ア」ラ願フ「ア」得ル
原告人ハ何レノ時モ至急ナル「ア」ラ欲セサル
ナシ然レモ裁判官ニ於テ其事柄ヲ急ニスハ
キト否スト「ア」見計ラヒ其願ヲ許ス「ア」アリ
許サル「ア」アリ
一此願書ヲ差出ス「ア」ハ裁判所ニ限ル「ア」ニ非ラ
ス裁判官ノ宿所ニ至リ願フモ可ナリ其刻ハ
ソノ宿所ニテ之ヲ訴ス「ア」アリ第千四十條

ヲ見合ス可シ

右諸件ヲ記セサル時ハ其呼出状ノ効ナカレハ
此第六十一條ノ内一ヶ條ニテモ穴ケタル丁ヲ
ハ呼出ノ効ナシ

若シ使吏ノ誤ツテ記シタルハ書直ス計リニテ
被告人ノ損トナル丁ナキナリ

其誤書シタル時ノ入費ハ使吏己レニ擔當ス
可シ茅千三十一條見合

裁判ニ取掛ルニキハ裁判官ニテ必ス其呼出状
ヲ檢査スル丁ナリ

第六十五條 此條勸解ノ丁アルニ付先ツ勸解
概畧ヲ説ク

一千七百九十年代佛蘭西ノ大變革ヨリ蘭英ニ
レ此勸解ノ法ヲ用セタリ

此時ヨリ英ニ行ハルハ陪審ヲ用フ

一其勸解ハ治安裁判官ニテ必ス相争ノ双方
ヲ呼寄セ裁判所ノ中ニアル自分ノ室又ハ
自分ノ宿所ニ於テ通常ノ衣服ニテ父ノ子
ニ教フ如ク勸解ス此時ハ裁判官ト云ハス
勸解人ト云フ又其場所ハ裁判所ト云ハス勸

解所ト云フ

一 勸解ハ人権物權トモ必ス被告人住所ノ治安
裁判官之ヲ為ス動産不動産等ノ別ヲ立ツル
丁ナシ

其住所ニテ勸解スルハ平生其被告人ノ能ク
知ル故ニ勸解為シ易キヲ以テナリ

其事柄ニ付勸解ヲ受タルニ及ハサルモノアル
トモ大抵必ス勸解ヲ受ル丁ナリ

一 タトハハ甲ト乙ト訴ヲナスニ丙ヨリ故障ヲナス
ソノ丙ハ新タナル人ナレバ之レカ為勸解ヲ

人民一般ニ知ルト看做シアル中々全國一
般皆能ク知ルモノニアラス

一 右ノ數ヶ條ハ原告人ニテ取調一申述タル上
使吏ニテ呼出状ニ記入スルナリ同區内ト雖
モ距離遠近ノ違ヒニテ日限ノ違ヒアリ

一 十リミリヤメートル毎ニ二日ノ猶豫ヲ與フ物
權ノ時ハ猶大切ナリ各地ノ距離ヲ知ラサル
モノ多シ

又被告人多キ時ハ日數ヲ費スナリ其猶豫ノ
原則ハ第七十二條ニアリ佛蘭西國內ニ住居

スル者ニ付テハ祭テ八日ノ猶豫アリ里程遠
キ時ハ五日ニリヤメトル毎ニ別ニ一日ヲ増
加ス

八日トハ中間八日ニテ呼出状到着ノ日ト裁
判所へ出ル日トハ除イテ八日ノ内ニ算入セ
サルナリ

祭日ニ當ル日ハ呼出状ヲ出サス又裁判所へ
モ出テス

又右ノ八日目祭日ニ當ル日ハ其翌日ニ呼出
スナリ右其祭日八日中ニアルモノハ期限

有名ナルノ類ナリ譬へハ道灌山飛鳥山ト云

フカ如シ第六十四條見合

右ノ通り記シ置クハ被告人ニ疑ヲ生セサラシ
ムル為メナリ

此項三段ト區分シ一ハ其事物ノ目的ニハ其緣由
三ハ其確實ナル証據ナリ

第四 訴訟ヲ審判不可キ裁判所及ヒ其裁判所
出席不可キ猶豫ノ期限

物權ナレハ其物件所在ノ地ヲ裁判所ヲ記又
被告人數人アルキ又ハ會所ノ定マラサル

此等ハ其會社中一人ノ住所ノ裁判所ニ
出席スルモ丁々定メ記スナリ
其裁判所處在ノ地名ヲ記入スルナリ
右ハ訴訟ニ慣レサルモノモアルユヘニ念ヲ入
ルナリ

一 猶豫ノ期限トハタトハハ裁判所近傍ニ住ス
ルノ人ヲ呼出スニモ四月三十日ニ呼出状ヲ出
スナラハ中間八日ノ猶豫ヲナシ來ル五月九日
出席スルキ旨ヲ記

一 法律ニ定メタルナトニ書ク可カラズ法律ハ

ナストナシ何トナレハ甲乙ハ既ニ勸解出來
スレテ訴訟ニナリタルニ今又丙ニ勸解ヲナス
共益ナレ徒ラニ時間ヲ費ヤスノミナリ

一 又訴訟中新ニ償ヲ申立ワルモノアルトモ主
ル訴訟勸解ス可カラサレハ其償ニ付勸解ス
ルナリ

一 訴訟ニ付保証人其訴ヘニ関スルナリ共
此亦勸解ヲ為サレナリ
故ニ一旦主タル訴訟ヲ始メタル上ハ勸解セ
カレナリ 第四十八條見合

主タル訴訟ヲ為サ、ル前ハ必ず勸解スルナ
ナリ

一 勸解ハ各自己レノ權利ヲ以テ其事物ヲ自
由ニ取扱フヲ得、キ權アル人ニアラサレハ
之ヲ為サ、ルナリ

一 幼年又ハ人ノ妻治産ノ禁ヲ受ケタルモソ等
其ノ事物ヲ自由ニ取扱フヲ得サル人
ハ其後見人管財人支配人等一々相談シテ
允許ヲ受ケサレハ能ハサル故ナリ
若シ勸解ニ為サントセハ右數人ヲ呼寄セサ

ルヲ得ス然ル時ハ其手續モ多クシテ容易ナラス
理ニ於テ當然ノトニアラサルナリ

一 第四十九條ノ目ニアルモノハ總テ勸解ニ及ハスト
ス何トナレハ政府縣邑等ノ事件ニ付テハ其會
議員ヲ盡ク呼ハサレハ能ハス是亦理ニ當
ラサルナリ

自主ノ權ナキ者勸解ニ及ハサルハ勿論又其人ハ勸
解スヘキ人ト雖モ其争フ所ノ事和解ヲ為ス
得ヘキトニアラサレハ勸解セス
タトヘハ子ヨリ人ヲ指シテ我父ト許フル如

キ是ナリ

夫婦別居ノ一夫婦財産ヲ分ツ一婚姻取消
ノ下等モ亦同シ

尤モ夫婦争ヒテ勸解スル一其具時ハ州裁
判所ノ裁判官之ヲ為スナリ治安裁判官ニテハ之
ヲ為サレナリ

一右ノ道理ハ治安裁判官ヨリハ州裁判官ハ威
權モアリテ勸解モ能ク行届ケハナリ且治安裁判
官ハ夫ノ朋友ナラニテ多ク相狎ルノ嫌アリ
其事柄佛ニテハ鄭重ニナスエハナリ
民法註
婚夫婦

別居ヲ許フル等
条ニ詳ナリ

右ハ詐ヘタリトモ必ス其ノ詐ノ通ニスル
モノニアラス其條理ヲ寫ト裁判官ニテ承知セ
サレハ之ヲナサレナリ

一離婚ハ重キ一エヘ離婚ニナラサレ様却テ治
安裁判官ニテ勸解シテ可然トノ説アレ治安
裁判官ハ平日相狎ルエヘニ輕ニシテ夫婦互ニ
信用セサルノ意味アリ
若シ勸解シテ不承知ナレハ必ス別居セシメ
テ夫々其家屋ヲ擇ビ及ヒ其給料ヲ与ノル一

子アレハ其子ノ引受等マテノ手ヲ付ケサル
ヲ得ス此等ノ一ハ治安裁判官ニテ之ヲ處置
スルノ權ナシ是亦州裁判所ニテ勸解スル所
以ナリ

一 勸解ヲ為シ得ヘキ人 ○勸解ヲ為シ得
ヘキ事 ○主タル訴訟

此三事ヲ滿ヘタルモノニ限リ勸解スルナリ
然レモ至急ノ場合又事柄ニヨリ勸解ニ及ハ
サルモノアリ

高業ノ事 ○家賃ノ事 ○土地借賃ノ事

○利息ノ事等ナリ

又被告三人以上ノ時ハ勸解セズ然レモ之レ
ニ及シ原告人多クシテ被告一人ナレハ勸
解ス

右ノ理ハ人情大抵拒ケテアル故ニ被告人多
數ナル時ハ必ス之ヲ拒ミ勸解シ難キモ
ノナリ

柳原告人ヨリ勸解ヲ願出ル時ハ既ニ一歩自ラ
退キ相談スルノ情アル故被告人ハ必ス之ニ乘シ
多人同腹ニラハ張ル故勸解セサルモノトス

タトヘハ外國人ヨリ我政府ニ雇ハレテ
顧フ時ハ政府ニテハ成ル丈ケ給金ヲ賤シク
シテ使ハントシテ外國人モ終ニ賤給ニ從フ
カ如シ四海兄弟ト云ト虽モ此ニ至テハ虧ル
所アリ

總テ顧ニ出ルモノハ損ナリ

此四十九條ノ目ニ於テハ大ニ議論アリ今ハ
七項ノ内二項ヲ取レリ第二項第六項是レナリ
第一項官府及ヒ云々ハ無論勸解シ及ハサ
ルモノニテ掲クルニ及ハス

第三項ノニタル訴訟云々モ原ヨリ勸解ス可
カラサルモノニハ亦タ掲クルニ及ハス

一第四項商業ハ急ナルモノニテ之レモ掲ク
ルニ及ハス是レハ第二項ノ迅速ナル中ニ含
有スルナリ

一第五項第七項モ記スルニ及ハス年金養料
拂方等原ヨリ勸解ノ出来サレモノナリ

一第五項中負債ヲ償ハサルニ付キテノ禁錮ハ已
ニ廢シタリ

但シ刑事裁判ノ費用ト罰金ヲ拂ハサル

トニ付テハ尚ホ禁錮アリ
右尋ノ如ク佛國ノ法律ニ於テモ不備ノ所アリ
故ニ之ヲ其儘日本ニ行フコトアル可カラズ我
國ノ害ヲ他國ニ及ホスナリ
併シ此法ヲ立テタルノ宜シカラズト云ニ非ス
法律編輯ノ宜シキヲ得サルヲ云ナリ
勸解ハ現地多分調フモノナリ其勸解調
時ハ此事ヲ如此方々ト治安裁判官ニテ証
書ニ認メ約区ヲ立テシムルコトナリ
其約区ハ變改ス可カラサルモノナリ

其勸解調ハサル時ハ其不調証書ノ嗎ヲ受取リ
後訴訟ニ被告人ヲ呼出ス時使吏ニ渡スナリ
治安裁判官ハ公正ノ官吏ナリ然ルニ第五十四條
ニ私ノ契約書ノ力アリト書キタルハ甚宜シカラ
ズ治安裁判官ノ書キタルモ公正ナル故ニ万一詐偽アリ
テモ他人ヨリ偽リナリト訴フルマテハ正シキ證トスル
モノナリ
公証人ノ証書ハ何方へ持出ストモ公正ノ証
書ニテ通ルモノナリ治安裁判官ノ書キタル
モノハ裁判所へ持出サレハ其効ナシ

何故ニ公證人ノ証書ト治安裁判官ノ証書ト右
ノ如ク違ヒアリヤト云ハ、此法律書ヲ作ル時、國
議院ニテ草案ヲ拵ヘタルモノナリ其節ノ考
ニ治安裁判官ノ書タルモノ一校公正ノモノ
トスル時ハ勸解々々ト云フテ皆ナ治安裁判
官ノ書付ヲ乞フニ至リ公證人ハ其職ヲ曠ツ
スルニ至ル故ニ治安裁判官ニ權ヲ付ケサル為
メニ如此ナシタリ
右ノ譯ハタトヘハ一萬「フランク」ノ契約書ヲ
公證人ニ頼ム時ハ三百「フランク」書賃アリ

之ヲ治安裁判官ニ頼ム時ハ一錢ノ費ナシ是
其公證人ニ頼ムモノナキニ至ル原因ナリ因
テ此ノ私ノ字ヲ下レテ暗ニ公證人ヲ助ケタ
ルモノナリ
故ニ公證人ノ書キタルモノハ其儘公正ノ書
トナリテ何地ニテモ行ハルレトモ治安裁判
官ノ書キタルハ同レク公正ノ証書ニレテ一
應裁判所ニ出サレハ其用ヲナサス
公證人ノ証書ノ本文ニハ「オー」ノニテ「ユ」ノ「グ」ニ「セ」
ノ文アリ

佛蘭西人民ノ名ヲ以テノ義ナリ之ヲ日本ニテ云ハ、
天皇陛下ノ御名ヲ書クカ如シ此公正証言ノ重
キ所以ナリ

一 以下再ニ勸解ノ一ヲ説ク

若シ兩人ノモノ勸解調ハサル時ハ其調ハサ
ル旨ヲ呼出状ニ記載ス

一 勸解呼出ノ節欠席スルトモ治安裁判官ニテ
欠席裁判ヲ為スル能ハス唯欠席シタル旨ヲ
呼出状ニ記入ス

一 欠席ノモノハ治安裁判官ニテ十ヲシテ

ノ罰金ヲ申渡スノ權アリ

其罰金ノ納ムルニハ八日ノ期限アリ

双方ノ中一方ノ者勸解ニ欠席シテ罰金ヲ拂
ハサル迄ハ州裁判所ニテ訴訟ヲ為スルヲ許サ
ズ 第五十六條見合

一 原告人ニテ欠席スレハ十ヲラシクテ出シタル上ニ非
サレハ訴訟ヲナスヲ得ス又被告人ニテ欠席シテ
罰金ヲ拂ハサレハ欠席裁判トナル

右拂フタル訴訟ノ代書人ヲ雇ヒ得ルナリ
其他勸解ニ付テノ書付ノ寫ヲ送ルニハ拂フ

タルトモ分カルナリ

第七

五月十日

第六十五條 其呼出状ト共ニ勸解ヲ得サ
ル事ノ調書ノ嗎又ハ勸解ニ出席セサル事ヲ
記シタル書ノ嗎ヲ送達ス可シ若シ之ヲ送達
セサル時ハ其呼出状ノ効ナカル可シ又呼
出状ト共ニ訴訟ヲ為スノ憑據タル證書ノ全
部又ハ一部ノ嗎ヲ送ル可シ但シ此等ノ照テ
呼出状ト共ニ送達セサル時ハ後ニ吟味ノ時
原告人其嗎ヲ送ルトアリト係ヒ其嗎ノ費用
ヲ裁判費用中ニ加フ可カラス

一 訴訟セントスルニハ先ツ必ラス 勸解トヘキ

トナリ勸解調フ片ハ訴訟トテラスレテ消ハ

ナリ勸解ノ調ハサルト又ハ欠席シタルトア

レハ其旨ヲ證書ニ認メ原告人ニ渡ス訴訟ハ

片ハ使吏其證書ヲ呼出状ニ添ヘテ附ス

ヲ呼出ス

一 其呼出状ニハ勸解ヲ為シ得ヘキ事柄ヲ書クニ

及ハス又勸解ニ及ハサル事柄ニ記スルニ及ハ

ス勸解ニ及ハサルハ記シ置マトモ其事柄

ニテ分明ナレハナリ

一 勸解スヘキモノト雖モ急ナル中ハ勸解ヲ受ケス其儘許ハ出ルナリ其時ハ勸解ヲ受ケサル旨ヲ記ス但シ此時ニ限り其旨ヲ記入スルナリ

一 至急ノ一ハ勸解ヲ為サス然レモ裁判官ニ於テ至急ナラスト見込ム時ハ其呼出状ヲ効ナシトス其時ハ被告人出ルトモ之ヲ帰ヘシテ更ニ勸解セシムルナリ
此時ニ當ツテハ其呼出ニ被告人出席セスト急元ト勸解ノ順序ヲ經サルニヨリ原告人ノ過

チナルニハ其呼出状ノ費用ハ原告人ニテ擔當スルナリ

一 其時迄ハ代書人未タ手ヲ付クルトナキ付其費用ナキナリ

使吏呼出ニ行ク旅費ハ前ニ説ク如ク一日二十ツラシクノ費用ヲ拂フナリ

一 原告人ハ被告人三人以上アリシテ呼出ル中其ノ一人ハ訴訟ニ関セサルコトアラシニハ被告人二人トナルニハ勸解セシムルナリソノ時ハ前ニ同シク費用ハ原告人ニテ辨ス

ルナリ 実地ニハサキナレトモ
決シテナレトモ

右ノ一説ハ教師等考へ出ス可ト云

一三人以上以下ト區別ヲ立テタルハ原告人我
カモ願ヲ急クユヘワサト被告人ヲ増シ三人
以上トシテ勸解ヲナサハル等ノ弊アルユヘ
之ヲ防ク為メニ此等ノ處ハ嚴ニ其區別ヲ立テ
タルナリ若シ右ノ場合ニテ呼出状ヲ出シタリト
モ其呼出状ハ効ナキモノトス

一第六十一條ニ載スル證據モノノ寫ヲ送ルヘシ 以下
本文

濶外ニ付
テ説ク

此書付ヲ添へ呼出スル原則ナレトモ若シ其寫
ヲ添ヘストモ其呼出状ハ廢物ニナルニアラス其
書類ノ寫ハ後ヨリ裁判所ニ出スル妨ケナケルニ費
用ハ原告人ニテ之ヲ拂フナリ

第六十一條呼出状ニハ證據ヲ節略シテ書載ス
ルト云ヒ此條ニハ其寫ヲ添フルト云フ
ナリ

第六十六條 使吏ハ總テ自己ノ宗系ノ血屬又
ハ姻屬ノ親及ニ其婦ノ宗系ノ血屬及ニ姻屬
ノ親ノ為メニ呼出状ヲ送達ス可カラス又其

再從兄弟以上ナル自己ノ傍系ノ血屬及ヒ姻
屬ノ親ノ為メ呼出狀ヲ送達ス可カラス若シ
此規則ニ背ク時ハ其呼出狀ノ効ナカル可シ
一使吏ハ誓ヲ立テタル官吏ナレモ親族等ノ嫌
疑ヲ避サル可カラス故ニ親族ノ為メニ呼出
狀ヲ取扱フヘカラスタトヘハ親族原告人ニテ
被告人ヘ呼出狀ヲ送達セシムルニ使吏故ラ
ニ之ヲ被告人ニ送達セス因テ欠席裁判ト
トナリ遂ニ故障申立又ハ控訴ノ期限ヲ過
キタル迄被告人ニテ知ラサル等ニテ大ニ其迷

惑トナルコトアルユヘ之ヲ禁シタルナリ
此條中血屬姻屬ノコトハ別ニ系圖アリ此條ハ
別ニ説ク可シ
一此條ハ親族ノ利トナル方ヲ禁シテ害トナル方
ヲ禁セス先ツ其區別ヲ説カンニ其害ニナルコ
トハタトヘハ使吏ニテ物件ヲ取上ル裁判ニ付其
書付モ其規則ニ合ハセス又取上女ヲモセス然ル
時ハ親族ノ為メヲ量リテ却テ害トナル可
トナレハ終ニソノ為メニ親族ノ罪ヲ讓スノミ
ナラス自カラ罪ヲ得ルナリ故ニ之ヲ禁セサルナリ

又害トナルヲ云ハ、使吏ノ父ハ他人ヨリカ、
ル訴訟アル時其呼出状ヲ父ハ必ラス送達
スヘシ

若シ之ヲ送達セサレハ欠席裁判トナリテ父ノ負
トナル故ニ必ラス送達スルナリ

故ニ親族ノ被告人ナルキハ禁セサルナリ畢竟利ニ
ナル方ハ之ヲ禁シ害ニナル方ハ差支ナキニヘ
之ヲ禁セス

一本條ニ自己ノ宗系血属トアリテ其分界ヲ立
テス上ハ祖ニ至リ下ハ孫々マテヲ含シテ

云フナリ

姻属ノ宗系ト云フモ即チ前條ノ如ク上下ニ
通シテ云フ

上、自己ノ宗系ノ血属又ハ姻属ノ親中ニハ
婦ノ宗系ノ血属ヲ含ム下ノ姻属ノ親トハ夫
ノ親属ニアラス婦ノミノ姻属ナリトハハ
一度嫁シタル婦ハ舅姑アルヘシ右ヲ引取り
タラハ自己ニハ關係ナシト雖モ婦ニハ關係
アリ

婦ノ離縁スレハ其姻属ニ關係ナシト虽モ其

子ノ跡ニ残リタルハ關係アリ
一旦離縁スレハ其縁断ユレ氏子アルトキハ
其縁断セス是其關係アル所以ナリ
其子ノ祖父アリソノ祖父ニテ自己ヘ呼出
状ノ一ヲ頼ミタル時ハ拒ク一能ハス愛情ノ
起ルハ必定ナリ其愛情ヲ以テ取扱フ時ハ
必ラス私マル可シ故ニ之ヲ禁スルナリ
若シ其子ナキハ姻属ナシ使吏ニ於テ嫌ヒナ
シ
本文ノ自己ノ宗系血属又ハ姻属宗系ノ親及

ヒ其婦姻属宗系ノ親婦ノ前婚ノ親ヲ指スト書ケハ分明ナリ
再從兄弟以上ハ夫婦双方ヲ兼子テ云フ
旁系ノ血属トハ伯叔父母以上ナリ姻属ノ親
トハ傍系ニ就テ云フ

前文ニハ婦ノ姻属トアリ自己ノ傍系ノ血属
云々ノ所ニハ婦ノ姻属ヲ説カス婦ニ姻属ノ
親アリト虽モソレ等ハ法律ニ載セス妻ノ前
婚ノ傍系ニハ嫌ナケレハナリ
子アルトモ子ノ伯叔ノ事ハ差支ナシ
一再從兄弟ヲ六級ノ親属ト云此再從兄弟ノ中

ニ異父母兄弟ヲ算入セス全ク同父母兄弟ヨリ
成リタル者ノミヲ云フ然ラハ異父母兄弟ニ
ハ送達スルモ可ナリト云フカ如シ法律ノ缺
ナリ既ニ法律ニ禁セサルニ於テハ異父母兄
弟ノ為メニ送達スルトモ其効アルモノトス
然レモ異父母兄弟ハ婦ノ血属即チ自己ノ姻属ノ
親ヨリモ其情ニ於テ甚タ密ナリ嫌トキ能ハス
本條ニ之ヲ禁スルヲ補フヘシ
然レモ佛ニテハ右ノ嫌ヲ避ケスレラ送達スルコト
ナキ為裁判所ニテ別ニ其取締法ヲ設ケタリ

此等ノ件ハ裁判所ニテ其罰ヲ加ヘ甚シキニ
至リテハニヶ月ノ停職アリ又自分ノ為
ニスルコト其ノ妻ノ為ニスルコト又
此條ニナキナリ元ヨリ自己ノ呼出状ヲ自
カラ書クコトハナキ筈ナレトモ法律ニ禁
ヒサルニ於テハ差支ナキカ如シトモ既ニ血族
姻属ノ為メニサヘ禁アルコトナレハ自己及ヒ
妻ノ為メニハ勿論ナリ
若シ右等ノコトヲ為シタル件ハ譴責ハ申スニ及ハス
餘程重キコトナルコトハ此條ニハ輕キヲ奉ラ

重ヲ云ハスト見做シテ可ナリ

日本ニテ法律ヲ立ツルニハ自分ノ為ニスル
ヲ妻ノ為ニスル一異父母兄弟ノ為ニスル一
ヲ分明記入スヘシ

此等ノ法律ノ所缺ハ佛國ニテ改草スヘ
キニ屢ニ國乱アルヲ以テ其改草ニ違フ
ク其儘ニテアルナリ

國議院ニテ回来コト改正ノ議論アリ然
ルニ千八百七十年ノ乱ニテ其事終ニ廢シ
タリ其後巴里ノ變ニ國議院ノ草案業悉

ク兵火ニ罹リタリ實ニ惜ムハシ

第六十七條 使吏ハ呼出状ノ正本及ヒ副本ノ未
ニ其謝金ノ高ヲ記入ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ
後ニ其呼出状ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル時五
「フラン」ノ罰金ヲ出ス可シ

一 呼出状ノ價ノ書クヘシ書カストモ其價ヲ取ラサ
ルニモアラス妨ナキニモアラス唯五「フラン」ノ罰金ヲ
出スノミ此条ハ余リ大切ナル條ニララス其謝金
ヲ貪ホルヲ宿弊ナルニ因テ之ヲ防ク為メ置キタル
ナレト別ニ謝金目錄表アリテ其價ヲ増減スル

規則アリハ此條終ニ無用ニ帰ス

第六十八條 呼出状ハ被告人ニ之ヲ渡シ又ハ其住
所ニ之ヲ渡ス可シ然レ被告人ノ住所ニ其被
告人及ヒ其親族從者ノ共ニマラサル時ハ使吏
其呼出状ノ副本ヲ近隣ノ者ニ渡シ近隣ノ者
其正本ニ其姓名ヲ手署ス可シ若シ其近隣ノ
者姓名ヲ手署スルコトヲ得ス又ハ手署スルコトヲ欲
セサル時ハ使吏其副本ヲ其邑長又ハ其輔佐役
ニ渡シ此等ノ者謝金ヲ得スレテ正本ニ捺印ヲ
為ス可シ

一 使吏ハ其正本及ヒ副本ニ此等ノ諸事ヲ附記
ス可シ

此條前ニ説ケリ故ニ此ニ贅セス

第六十九條

此以前各人民ヲ呼出スコトヲ解ク此條以下ハ全
ク別ナリ第一項ヨリ第六項マテハ無形ノ人ト見
做スモノナリ

第一官府ヲ其土地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付キ
呼出ス時ハ其訴訟ニ審判ス可キ裁判所在ノ地ノ
州長又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ

官に無形ノ人ニテ其所有物アリテ被告人ニナルヲ
ヲ説キタリ行政ノ事件ニ関シタルトニアラス即チ
官ヲ一人ト見做シ民事ノ裁判トナル

官ノ所有ニカ、ルモノハ民事裁判

一 若シ官ニテ人民ノ私地ヲ取込ム時ハ其害ヲ受タルモノヨリ訴出テ民事裁判トナル

又官ノ山林等ヲ買ヒタルニ間違アリ又ハ其土地家屋賃借ノトニ付テハ訴ハ民事裁判

一 又一ツノ大切ノ例アリ日本ニテモ國債アリ佛ニテモ又大國債アリ此等ハ人民一般ノ金ヲ借ルト同一

ナリ此等ハ政府ト雖モ別ヲ立テス一般人民ト看做シ其訴ハ民事裁判トナル

以上皆民事裁判ニナルモノヲ云フ
以下行政ニ出ル分ヲ云ハシ

政府ト人民ト關係ノ時政府ノ權ヲ以裁判セサル可カラサルトハ行政裁判ニ歸ス

タトハ租税ノトニ付其出スヘキ高ハ立法官ニテ法律ヲ以テ定ムレ其各人民取立ルトハ各地方ノ行政ニテ之ヲ為スナリ

毎年翌年ノ不動産税ハ何程ト定ムタトハ

其高百万トスレハ之ヲ八十六州ニ課シ一州ニテ
何程ト定ム

尤州ニ貧富大小アレハ其相当ヲ以テ割合ヲ定ム

州又之ヲ郡アルロシスマンニ割付又之ヲ邑ニ割付一邑ノ高

ヲ定ム

ソレヨリ邑會議院之ヲ一人マタニ割付ルナリ具

人マニ割付ルニ付テハ其者所持ノ土地廣狹産

物宅地空地等ノ表ニヨリ検査シ其稅ヲ課ス

ルナリ

右表ハ行政官ニテ製ス其表ニハ不適當ノ一

アリテ余分ニ稅ヲ拂フアル時之ヲ訴ル如キハ

即チ行政裁判ニ歸スルナリ

日本ニテ云ハ、

天皇陛下其高ヲ定ムルヨリ其各人ニ割付ル

至ルマテ行政上ニテ取極ムルナレハナリ

此等ノ一ヲ若シ民事裁判ニテ取揚クルハ

「コンツリー」権限ノトナル

三世ナホレオン千八百五十二年ニ大統領トナリ

片前主「オリアン」家ノ財産ヲ取揚ケント布告

タル此「オリアン」家ノ財産ハ佛國ノ物ナリ然ルニ其

オナリアン家ノ子孫ヨリ占ノヲ布告直シニ為シテ
モライ度旨民事裁判ニ訴ヘタリ之ヲ民事裁判
ニ取揚ケタルヲ以テ巴里ノ州長ヨリ故障申
立タル故民事裁判ニテ之ヲ拒ムキハ権限ノ
争トナルニ付之ヲ行政裁判帰ニタリ然ルニ右
訴訟ハ布告ノ通りト裁判ニナリタリコナリ
アシ家ノ訴ハ効ナシトナレリ

昨年「ナホ」オニ三世ノ甥ナル者佛ニ帰ラントス
ルヲ警視廳ノ手ニテ留メタルニ付人民ノ權利ヲ
妨ケタリトテ警視廳ニ對シ民事裁判所ニ訴

ヘタリ此時ニ民事裁判ニテ取揚レハ権限
争アルト見タル故此訴ヲ断ハリタリ其時
言ニ一政府斃レテ一政府立ツ時ハ新政府
為メ人民ヲ保護セサル可カラスト云フ

一タトヘハ教育ノ官アリ不拔ノ官ナラサハ場
合ニヨリ免職セラル、コナリソノ場合ニヨラスシテ
免職セラル、時ハ何故ニ免職セラル、ヤト訴フル
アリ此訴訟ハ行政裁判ニ訴フ
タトヘハ文部卿ハ自分教師ヲ免職スルノ権アリ
然レ共自分ニハ故障ヲ訴フルノ権アリ

自分教師奉職中休暇ヲ得テ日本ニ来リ居
佛ノ文部省ニテ免職スルハ自分ニテ之
ヲ行政裁判ニ訴ルナリ

一 右権限ノ大主意大改ニツニ分カル官ノ公
権上ニ就テノ訴訟ハ行政裁判ナリ
官ノ私権上ニ就テノ訴訟ハ民事裁判ナ
リ

第六十九條

第一項官府ヲ其上地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付
キ呼出ス時ハ其訴訟ヲ審判ス可キ裁判所所

ノ地ノ州長又ハ其住所ニ呼出状ヲ送遠ス可シ
一 官ニハ必ラス所有物アリソノ事ニ付テノ訴
訟ハ一般ノ法ニ循ヒ民事裁判ニ歸ス

一 官ノ所有物ニ於テ不動産ナレハ物件所在ノ
地ノ裁判所ニテ處分ス

右ノ場合ニ於テ官府原告ニテハ人権ナルキハ
被告人所在ノ裁判所ニ訴フルナリ
若シ官府人権ノトニ付被告人トナルキハ何
レノ裁判所ニ訴フヘシト法律上ニ云ハスト
虽ニ呼出状ヲ何レノ所ニ送達スヘシト法律

ニコレアリ

此項ニ云フ如ク官ノ所有物ニ付テハ訴訟ハ
州長又ハ州長ノ住所へ送達スルトアリ原来
官府ノ所有スル山林田地等ニ必ス管理者ア
リ故ニ此管理者ニテ其訴訟ヲ引請ク可キカ如
シト虽モ州長ハ一州ノ惣代ニシテ其地ノ吏
配權アリ且管理者ヨリモ聰明ナル故ヲ以
テ其訴訟ヲ防クニ委シキエハ州長ヲ呼出ス
ナリ

タトヘハ 神奈川県中ニ製鐵場アリ 鑛山ア

リ工部省ニ属スルモノト虽モ工部省ハ惣テ
製鐵ニテモ鑛山ニテモ其業ヲ盛大ニス
ル責アルモノニシテ其土地ハ即チ政府ノ
モノナレハ大藏省ノ管轄ナリ因テ其上
地ノ事ニ付訴訟起ル時ハ工部省ヲ呼出
タサスシテ縣令前文ノ州長ニ當ルヲ呼出
スナリソノ時ハ縣令ハ政府ノ名代人トナル
ナリ

何故ニ州長ヲ政府ノ名代ト為スマヤ云ハ
大藏卿ハ全国ノ地ヲ管スルヲナレハ一人ニ

テ自身一々之レニ應接スル一能ハサルユ、
地ノ情態ヲ熟知スル州長ヲ以テ名代人ト
ナスナリ

一タトヘハ神奈川ニアル鑛山ニテ人民ノ所有
地へ侵入シタル片ハ鑛山寮出張ノ官吏ヲ呼
ヒ出スヘキカ如シ然ルニ縣令ヲ呼ヒ出ス
不相當ニ見ユレモ否ラス尤モ事ニヨリ鑛山
寮ノ官吏自ラソノ規則ヲ犯シタル時ハ直チ
ニ寮ノ官吏ヲ呼ヒ出スアレモ鑛業ニテ人
民ノ所有物ニ侵入セシ時ハ必ラス縣令ヲ呼

出スナリ元ヨリ寮ノ官吏ハ土地ノ一ニ付テ
ハソノ訴ヲ防クノ權ナリシテ縣令ハ土地所有
ノ名代人ナレハナリ

縣令ハ政府ノ代人トハ云フモ分別スレハ即チ
大藏卿ノ代人トナル譯ナリ

第二項官府會計局ヲ訴訟ノ事ニ付キ呼出ス時
ハ其官吏又ハ其官署ニ呼出狀ヲ送達ス可シ
一右ハ人權ニ関スル一ニテタトヘハ會計官吏
ニテ人民ヨリ金ヲ借ル一アリ右ニ付訴訟起
ル時ハ人民相互ノ訴訟ト同一ニ帰スル故リ

ノ會計局ニ呼出状ヲ送達スルナリ其借金ハ
官ノ借用ニ相違ナケレモ官ノ公積ヲ以テ
借リタルニマラス畢竟會計局ノ私借ナリ
故ニ民事裁判トナルツノ時ハ大藏卿ヲ呼出
スナレモソノ名代ニ會計局ヲ呼出ス
ナリ

一タトヘハ金ヲバンクヘ預ル如ク人民ヨリ官署
ヘ預ケルナリ尤モ利金モアルナリ此等
ノトニ付訴訟トナルモハ人民ヨリ官署ヲ
相手取ルナリ

又政府ニ関スル新聞紙又ハ公證人等ハ保
證金ヲ出シ置クニソノ業ヲ罷メルハソノ
金ヲ政府ヨリ返ス可キニ猶之レヲ返サルハ
ハ訴トナルナリ

ソノ時ニハ政府ハ政府ナレトモ金ノ預リ
云フモノナリ故ニ一般人民ノ訴訟ト同シク
ク民事裁判所ニ訴フ
凡政府ニテ公ケノ權ヲ以テ取扱フタル金
ニ於テハ民事裁判ノ權外ナリ
一タトヘハ官吏ノ私ノ疎忽ニテ出仕セテ

等ノコニテ月給ヲ引クトキソノ官吏ヨリ苦
情ヲ訴フルモノハ民事裁判ノ權ニテス
即チ行政裁判ノ權ニアリ

又官府ニテ人民ヨリ金ヲ借ルトキハ官府
ノ權ニテ借ルニマラス官府ニテ人民
トナリテ人民ヨリ借ル理ナリ即チ國債
等之ナリ

又陸軍ニテ軍器ヲ注文スルニソノ軍器
ニ付テハ訴訟ハ行政裁判ノ權ナリ
ソノ節ハ注文シタル者ノ御自カラ其器械

師ヲ呼ヒ出タシ且ツ自カラ裁スルナリ
國債ニ付キ争ノ起リタルトキハ即チ此ノ項
ニ入ルナリ

尤モ右ノ場合ニ於テ争ノ起ルコトハ絶テナシ
近年ノ戦ニ國債證書ヲ失ヒタルモノ深山ヤ
リソノ時ニ更ニ證書ヲ請取ルコトヲ會計官
ヘ乞フモノアリソノ節右ヲ取調ヘテ渡ス可
キニ之レヲ拒ム氏之ヲ訴フ如キハ即チ民事
裁判ニ入ル
タトヘハ陸軍御ヨリ軍器ヲ注文シタル其

器械遅延シテ未タ出来サル内ニ最早軍モ
果タリ因テ其事ニ後レタルヲ以テ軍器ノ
價ヲ引ケト云フキニ争ノ起ルモノハ私事
ニアラス公權ナリ故ニ行政裁判ナ
リ
右ノ如ク軍器ノ粗悪又ハ其出来方遅延ス
ルニ付其價ヲ引ク時訴ノ起リタルトキハ民
事裁判官ニテソノ争ヲ審理スルノ理ナシ即
チ陸軍卿ニテ裁判ス
人民ノ為ノニ軍ヲ起スハ政府職務上ノ公

權ナルニ其用ヲ勤ムルモノソノ事ニ怠リ或
ハ其物ヲ粗悪ニスルハ之レカ為ノ不都合
生スルニ至リ政府人民ニ對シ其義務ヲ定ク
所以ノ理ヨリ起ルナリ

一 国債ヲナスニ於テソノ人民ヲシテ損害ノ支
ケサラシメント欲スルカ為ニ政府ノ權ヲ
以テセス一般人民トナリテ借ルナリ
佛ニテモ行政ノ一ニ付テハ自カラ注文シテ
ソノ争ヲ起シ自カラ之レヲ裁判スルハ不都合
合トノ論アリ故ニ政府外ニ別ニ行政裁判所

ヲ直キ通常裁判官ノ如ク不拔ノ權ヲ與ヘタ
ル裁判官ヲ設ケント云フ説アルモ未タ行ハ
レズ

一本項ニ基ツキテ説ク

官府ニテ金ヲ借ルニ人民一般ノ如クハ
少シク不相當ナルカ如キモハナレモ
タトヘハコ、ニ陸軍省ノ注文ヲ受ケタル軍
器ヲ同省ヘ納メ陸軍卿ノ捺印アル證書ヲ以
テ金ヲ請取ラントスルニ會計官吏ニテ金
ト云テ渡サレキハ如何ス可キヤ即チ

右ノ注文品ハ既ニ検査済ミニテ納アリタル
モノナレハ即チ民事裁判トナルナリ
器械ノ美惡ト出来ノ遲速トハ行政裁判ナリ
既ニソノ品ヲ受取りテ金ヲ渡サレ時ニ至
テハ民事裁判ナリ

此條ニ於テ法律上ニ付キ議論スヘキトアレ
氏佛ニテ此條ヲ存スル間ハソノ立テ置ク
ノ理ヲ辨明セサル可カラス

第三項官署又ハ公舎ヲ訴訟ニ付キ呼出ス時ハ
其本局ニ呼出狀ヲ送達シ其他ニ於テハ其委員

又ハ其官署ニ送達ス可シ

一官署又ハ公舎トハ公ケノ建造物ヨシト云フ病院

狂院又ハ養育院質屋等ノ如キ官ヨリ監察ヲ

ナスモノナリ

諸省等ノ如キハ此中ニハ入ラス

右ハ全ク人民ヨリ醸金ニテ出タルモノナレ

ハ政府ヨリ監察ヲナスエハ公ケ建造物

ト云フ 寺ハ邑ノ持テエハ此内ニ入ラス

其建物ハ私有物ナレハソノ支配ヲナラズ

ハ官ヨリ命スルナリ此公ノ字安ナラス

ソノ附属ノ官賃ノ月給ハ此建物ノ揚リ高ヨ
リ出ス

此建物ヲ建ルニモ関ルニモ政府ノ允許ナカ

ルヘカラス尤モ地方官ニテ允許ス此會計モ

官ニテ検査スルナリ

一此本局ハ首府ニアリ支局ハ州ニアリテノ時

ハ本局ハ本局ノ地支局ハ支局ノ地ノ裁判

ニ呼出スナリ

第四項皇帝ニ其私領ノ事ニ付キ呼出ス時ハ裁

判所管轄地内ニ在ル檢事ニ其呼出状ヲ送達

スヘシ

一佛ニテハ長ク王ニテ後皇帝トナリ今ハ大統

領トナリタリ大統領ニ對シテハ此條ハ用ヒ

ス

古ヨリ言傳ヘニモ王ニ對シ訴ヲナストテ得

スト故ニ檢事ヲ呼出スナリ此訴訟法ノ條ナリ

タルトキハ檢事ヲ王ノ名代トスナリ故ニ此

ノ如シソノ後千八百三十二年ニ至リ全ク王

ノ所有物ヲ管轄スル官吏出来タリ民事目錄
官吏ノ譯ス

後ハ此官吏ヲ呼出ストナリタリ

原来檢事ヲ王ノ名代トスフハ間違ヒナリ一

般人民ノ名代ナリ

故ニ千八百三十二年ノ時ニ至リ民事目錄官

吏アトミニニスタラトールテハストシビル王
ノ書付ヲ以テ其所有物ヲ支配スル官ニ義

ヲ呼出シソノ後千八百五十二年ニ至テモ同

シ決シテ王ヲ呼ヒ出ストナシ

千八百四十八年千八百七十二年トモ大統

ニ對シテノ法律ハ別ニ設ケサリシ

第五項邑ヲ呼出ス時ハ邑長又ハ其住所ニ呼出

状ヲ送達シ巴勒ニ於テハ州長又ハ其住所ニ之

ヲ送達ス可シ

一邑ノ一ヲ説ク前ニ先ツ説クコトアリ千八百六
年訴訟法ヲ編成スルマテハ州ハ只土地ノ分
界マテニテ州ヲ無形ノ人ト見做スコト之レ
シ故ニ州ノ一ハ此ノ法律ニ載セサリシ今日
ニ至リテハ州ヲ無形ノ人ト見做コトニナリタ
リ故ニ州長ヲ呼出スコトナリタリ
州長ハ州ノ名代人ナリ又政府ノ名代人ナリ
故ニ人民又ハ他州ヨリ此州ヲ相手取ルキハ
州長ハ州ノ名代人トナル又州ヨリ政府ヲ

相手取ル時ハ州長一人ニテ州ト政府トノ名
代トナルコト能ハス故ニ州長ハ政府ノ名代
トナリ州ノ名代人ハ州會議院中ヨリ撰ミ
出ス

右ノ名代人ヲ撰マサル間ハ州會議院ノ長
之レヲ為ス

邑ニ所有物アリ右ニ付キ詭アル片ハ邑長
テ邑ノ名代人トナル
邑ヨリ州ヲ相手取ル片ハ州長ハ州ノ名代人
トナリ邑長ハ邑ノ名代人トナル州ヨリ邑ヲ

相手取ル片モ亦同シ尤モ此例ニアラサルモ
ノアリ「巴里」リヨシ之レナリ

巴里ハ二十「アル」コンヂスマシ「アル」コンヂスマシ
毎ニ長アリ右ノ如ク邑長數人アリテ其長
一府ノ名代人トナル丁ヲ得ス故ニ州長ヲ「リ
ヨシ」モ巴里ト同シキユヘ州長ヲ相手取ルナ

右ニ付テ少シク面倒ナル丁アリ若シ州ヨリ
巴里府ヲ相手取ルトキ州長一人ニテ州ト巴
里府トノ名代人トナル丁出来サルナリ

但シ巴里ノ規則ハ人民ヨリ巴里ヲ相手取
ルハ州長之レニ代ル

ソノ時ハ権カアル方ニ依リテ州ノ名代人ト
ナリ邑ノ方ハ邑會議院ヨリ名代人ヲ撰ハナ
リ千八百四十八年マテハ巴里ノ州長ヲ稱シテ
「メル」サンダラール中心邑長ノ議ト云フ今ハ否ラ
ス

ソノ所以ハ州長ハ巴里ノ邑會議院ニ上席ヤ
ス別ニソノ上席人ヲ撰ハ丁ニナリタリ故
ニ其名ナシ

巴里ヨ此ノ如ク區分スルハ一人ノ邑長メールニテ
廣キ首府ヲ總轄スレハ人民ノ不便利ヲ生ス
ル故ナリタトハ婚姻死去ノ届等ヲナス
遠隔ノ地マテ往來セサルヘカラサルヲ以テ
不便利ナレハナリ

第九

五月廿日
第六十九條

此五ヶノ場合ニ於テハ呼出狀ノ副本ヲ受取リ
タル者其正本ニ檢印スヘシ若シ之ヲ受取ル
ヘキ者其所ニ在ラス又ハ其所ニ在リト雖モ檢
印ヲ為スヲ肯セサル時ハ治安裁判所ノ裁判後

又ハ初告裁判所檢事其檢印ヲ為シテ其呼出
狀ノ副本ヲ受取ル可シ

本條ノ五項ハ總テ無形人ニ對スルモノヲ
云フ右ハ人ニ對スル呼出狀ト違ヒ政府ヲ呼
出ストキニ於テハ官吏ノ身ニ切實ナラサル
ニハ急リ勝テナリ故ニ官吏ノ身ニ染ミ忘レ
サル為メニ檢印セシムルナリ過日説キタル
本人其一家不在ノ時近隣ニ送達シ檢印セシ
ムルハ使吏ヲ疑フニハアラス請取リタルモ
ノハ等閑ニセサル為メナリ

民法ノ講義ニ於テ義務ヲ生スル五根元ヲ説
キタリ此ヶ條ハ前キノ五根元中ノ何レニ
入ルヘキヤトイハ、契約ノ部ニ入ル即チ
代理ヲナスノ契約トナレハナリ

第一ハ縣令

第二ハ官吏

第三ハ公舎等ノ支配人

第四ハ皇帝ノ私有物支配

第五ハ邑長等

右等ハ總テツノ職ニ任シタル節既ニ代理

為スノ契約ヲ生ルタルモノトス

若シ右等ノ官吏ニテ請取ル丁ヲ欲セス又ハ

不在ノ時ハ治安裁判所ノ裁判官又ハ被告裁

判所ノ檢事ニテ請取り檢印ヲナスナリ

其官吏ニテ拒ム丁ハ甚タ稀レナリ然レトモ

時ニヨリツノ呼出狀ヲ見テ縣邑等ノ官吏

ニテ此レハ他ニカ、ル丁ニ付キ請取ラス

故障ヲ云フ片ハ使吏ニテハツノ當否ヲ辨

別ツル丁能ハサルニハ裁判官又ハ檢事ニ渡

スナリ

公権ヲ以テ長官ヨリ品物ノ注文等ヲ申付ル
丁アリソノ事件ニ付呼出状ヲ會計局ノ官吏
ヘ送達スルニ右官吏ニ於テ我ハ此事ヲ知
ラスソノ省ノ長官ヲ呼出スヘシト云フ如ク
之レナリ

檢事又ハ治安裁判官ニ渡シタル上ノ送運ニ
付テハ拒ムコト能ハス故障アルハ裁判所出
テ述ヘサルヘカラス万一ソノ時ニモ日限中
ニ裁判所ヘ出サレハ欠席裁判トナリテ邑長
ナレハ一邑ノ責メヲ一身ニ受クルナリ

檢事又ハ治安裁判官ノ定メタルハ使吏ノ便
利ノ為メナリソノ送達ハ可キ距離ニ於テカ
ントンレナレハ治安裁判官ノ方近シ巴里等ニ
テハ檢事ノ方近シ何レニテモ其便利方ニ渡
シテ然ルナリ

ジウゲトヘレニテハ必ス請取ルナリ何トレ
レハ官禄アリ不抜ノ権ナシ拒ムコト能ハス
邑長ハ自由ニ議論スルコトヲ得ル

第六十九條 第六項

高社ヲ其社ニ結ヒタル時間呼出スルハ其高社

ノ家ニ呼出状ヲ送達ス可シ又既ニ商社ヲ解キ
タル後ハ其社中ノ者又ハ其住所ニ之ヲ送達ス
可シ

商社モ亦無形人ナリ

此項算譯誤マリタリ

商社ヲ結ビソノ家ノ定マリテ存在スル間

ハ其商社ノ家ニ送達ス可シ若シ定マリタル

商社ノ家ナキハ其社中ノ人又ハ其人ノ住

所ニ送達ス可シト云フナリ

商社ヲ解キタルトキノハ書ヲ無之候ニ總

會計ノ仕揚ケ無之間ハ即チ此條ニ循フナリ

商社ノ家ノナキト云フヲ説カン

トトハ肥前ノ陶器ヲ東京ニ出シ賣ント

數人約束シテ運輸スルモノアリ肥前ニモ

ノ會所ナク東京ニモ其會所ナシ候シ數人

約束シテ商ヲナストキハ即チ其社ハ有

ナリ

商社ノ存續スル間ト云フヲ説カン

商社ヲ立ルルハ社ノ為メニスルニアラハ

解キタルトキ一人々ヨリ勘定ヲ取ル

了ニテハ其ヲ取一人ノ迷惑ナリ故ニ總勘
定ニ濟ムテハ法律上ニ於テ其社ヲ解
サレモノト見做シテソノ社ヨリ勘定ヲ取ル
様ニ定メタルナリ

右ノ譯ニ於テハ裁判ノ都合ノ為メヨリハ
民ノ都合ノ為メヲ重ニスルナリ

民法五百二十九條ヲ参照スヘシ
既ニ會社ヲ結ヒ銘々動産不動産ヲ差入レ
タルトキハ即チ會社ノ動産不動産ニテ一己ノモ
ノニアラス故ニ其不動産ノ書入シテ一己ヲ金

ヲ借ルコトヲ得ス

會社ニ於テ民事商事ノ別アリ

商社ヲ結フニ既ニ持込ミタル動産不動産
ハ會社ノモノナレドモ民事ハ否ラス其所有
物ヲ持込ミタリトモ矢張り各自ノモノナ
リ

民事商事全ク別アリ商業會社ハ

ノ人ト看做セドモ民事會社ハ無形人トセス
商社ニテ持込ミタル財産ハ商社ノモノナ
レドソノ會社前金ハ各自ノ利トナル

タトヘハ幼年ノモノ高社ニ入ルニ元來相當ノ
裁判所ノ允許ヲクシテハ幼年ノモノニテ
不動産ヲ賣ル丁ヲ得スト雖氏高社ニ入り
タル上ハソノ手數ヲ經スシテ賣ルナリ
ハ高社ノモノニシテ且動産ト見做セハナリ
民事ノ社ニ於テハ前文ノモノヲ賣ル丁能ハ
ス有形ノ人ナレハナリ
會社ハ入レサル財産ハタトヒ其社分散スル
丁アリトモ其分散中ニ入ラス既ニ社ニ入
レタル丈ケノモノハ其分散中ニ入ルナリ

社ニモ種々アリ株金差入會社ニ於テハソノ
社ニ入レタル金丈ケミテ濟ム
有名會社ニ於テハ銘々ノ身代ノ有ル丈ケ分
散中ニ入ル

幼年ノモノハ高社ニ入ル權ナシト虽モソノ
父ニ於テ既ニ社ニ入りテ後死去シタルキ
其子ツノ相續人トナルニ付テ社中ニ入り
ルナリ元ヨリ幼年ニテ入社スル丁ハ出来
ザルナリ
高社ニ入ルニ銘々差入レタル動産不動産

又ハ其社ノ金ニテ買得ルモノ、皆其商社ノ所有ナリ

ソノ義務ハ如何ナルモノト云フ片ハ動ク者ニテ義務ナリ故ニ自己ノ物トナスハソノ前金丈ケナリ

法律上ニ於テ何故ニ民事ノ會社ト商業ノ會社ト如此區別立テタルヤトハ、ソノ商社ト取引スルモノニ於テ十分信ナシモノトシテ信用ヤシムル為メニ立テタルモノ故社外銘々貸シ金アル者ヨリ其

社へ掛リ取ルハ出来サル為メニ為シタルナリ

然レ氏民法五百二十九條ニ云フ如クソノ社ヲ解クトキハ所有ノ權ハ全ク消滅スルナリ本條ニ基キ説ク

會社ノ存續スル迄トナス片ハ銘々ソノヲ持チ去ルナリソレカ為メ社金ト私金トヲ清シテ社ト列合タルモノト迷惑トナル故ニ法律上ニ於テ總勘定ノ濟ハマテハ會社ノ存續スルモノト見做シテ其社ニ送達スルナリ

此事ニ付テ議論アリ前文ノ通り會社ニ商
事ト民事トノ別アレハ今之レヲ行ハシ商事
ノ方ニ從ハシ歟民事ノ方ニ從ハシ歟
民事ノ會社ニ於テソノ家ヲ立ツルニソノ
ハ誰ニ屬スルヤト云ハ其社中ノ各人
屬ス尤モ出金高丈ケツ、屬スルナリ
故ニ右會社ノ一人ニ於テ分散ト云ハ
ソノ高丈ケ即チ分散中ニ入ル
佛國ニ於テ民事ノ會社モ金ク商社ノ如クス
ヘシトノ論アレト立法官ニテ未タ其論ニ從

ハス

民事會社ノ不都合アルハ社中ノ一人分散
タルトキバソノ社中ノ關係トナリ迷惑ヲ
蒙ルナリ

委シキハ會社規則ヲ見可シ

民事商事ヲ別ニ立テタル原因ハ如何ト

古ハハ社ヲ無形人ト者做スナリ 知ラナ

リ古トテモ民事商事ノ社ハアリタレト惣

テ有形人ヲ以テ取扱フナリ

革命後稍ヤク商社ノ無形人トナスナリ

論ニ出シタリ

農業會社ニ於テ無形人トナサハソノ中ノ
一人借金スルニ土地ハ其社ノモノニテ
動カスコトヲ得ス不都合ナルヘシトノ
アレ共無形人ノ市都合ヨロシソノ
ノ為メニハ分前金丈ケラ自由ニシテ
土地ハ動カスコトヲ得サラシムレハナリ

第六十九條 第六項餘論

此第六項設立宜シカラス第一句誰レカ防
クト云フコトナシ第二句ハ場所モ人モ不明

ナレトモ第一句ハ場所丈々有ツテソノ人
ヲ言ハス

凡ソ會所ノ有ル商社ニハ必ス支配人ハ有
ルモノナリ故ニソノ支配人ニ渡シ可シト
記セサルヲ得スソノ會所ノナキハ銘々
支配人ナリ誰ニ渡シタリトモ苦シカラズ
前文ニ誰レト人ヲ指シテ書サルハ書キ
落シナリ故ニ又ハ支配人ニト書キ入レハ
シ

過日説キタル如ク使吏途中ニテ被告人ニ

逢タルトキハ途中ニテ渡シテモヨロシト
故ニ支配人ニ途中ニテ渡シテモヨロシト
ス會所ナレハ誰レニテモ渡シテ苦シカラ
ス但シ支配人ノ宅ヘハ送達スルト相カ
ラス

第六十九條 第七項

家資分散人ノ連結セシ債主ヲ呼出ス時其管
理者又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ

此第六第七ハ取分ケ商人ニ係ルナリ右ニ向
キ少シク其ノ分散ノトヲ談セン

分散トハ拂ヒノ止マリタリト云フ迄ニテ到底
行キ尽キタリト云フニハアラスソノ譯ハ人ニ拂
フヲ能ハサルトモ亦人ヨリ取ルモノナキトハ
云フ可カラス

商人ニテハ商事ニカニル義務モアレハ民事ニ
カニル義務モアリ故ニ其ノ拂ノ差支タル
旨ヲ裁判所ヘ自カラ届出ルニ出入帳
ノ如キ差引ニ属スル書類ヲ一切添テ
出ス

萬一右商人ニテ右仕分ノ書類ヲ出ササル

片ハ債主ヨリ届出ツ其時ハ過失分散人ト
ナリ眾ヲ得ル銘々勝手ニ分散人ト云フ
能ハス

裁判所ニテソノ差引出入ヲ取調ヘタル上
ニテ分散ノ形状アル中ハ其方ハ分散ト言渡
スナリ

右分散ノ形状アリテ届出タル上強分散人ト
言渡サル、迄ハ自カラ其財産ヲ運用シテ可
ナリト虽モ言渡サレタル上ニハ監財人カ自
自カラ運用スルヲ能ハス

右ノ分散ニテソノ人ノ権利モ右ノ如ク違フ
ナリ届出タルヨリ言渡サル、迄ハ凡ソ三日
位ナリ

監財人ハ分散人ノ為メノミニアラス債主ノ
為メニモ設ケ在ルナリ

此監財人ハ分散人ト債主トノ間ニアリテ双
方ノ名代トナルナリ

分散言渡シノ濟ミタル上ニ三ツノアアリ
ソノ事ハ一ニ三トツ、タフモアリ又一又ハ
二又ハ二三又三ニテ濟ムヲモアリ

第一ノ「ハ」コシコルタート云ヒテ衆債主打寄
リ相談ノ上約束トナルマテノ一事

右打寄相談ヲナス「ハ」双方ノ為メニナル「
コ」ハニ望ム「フ」ナリ

右「コシコルター」ハ債主打寄約束ヲナス所以ニ
シテ御解ノ如キモノナリ

ソノ打寄ルトキニ分散人ニテ分散ニ至ル次
節ヲ述フルニ財主ニテ分散人ニ於テ廉耻ア
ルカ又ハ才能アルカ又ハ人ヨリ得ルキ金額
ノ拂方ヨリモ多クアルトキハ分散人ヲ引込

ル相談ヲナス但シ前文ニ及シタルモノ等ノ
節ハ直々ニ分散スル「フ」アリ

又自分不束ナル「フ」ナクシテ人ノ為メニ分散
トナル「フ」アリタトハ「甲」ニ金ヲ貸シ置クニ
甲ヨリ乙ニ金ヲ貸シ右乙ニテ分散トナル為
ニ債主分散トナル「フ」アリソノ時ハ債主マテ
甲ノ行立様ニ世話ヲナシテ遣ル「フ」アリ

分散トナルトキハ必ス監財人財産目録ヲ作
ルヘシソノ人物ノ慥カナルモノナレハ監財
人ニテ衆債主ヘ對シ金額ノ二割ノ拂ヒ其餘

八年賦ニセント云フトキ衆債主ニテ分散人
ハ不人物ナリ故ニ半高ヲ取り其半高ハ見切
ラント云フモアリ

以上ハ分散人ヨリ品數ヲ申立ルニ監財人ニ
テ發言オナシテ品々何々有之此ノ上年賦等
ニシテ再ヒ立ツ様ニシテ被下ト云フモアリ
衆債主ニテ或ハ慾アリ又ハ強情等ニテ分散
人ヨリ申立タルコトヲ同意スルハ能ハサ
ルテアリ故ニ法律上ニテモ必ラス同意セヨ
トハナシタトヘハ債主廿人アラハ十一人同

意ナレハヨシ借金高ノ四分ノ三文ケ同意ナ
レハヨシ右ノ通り人ノ數ト金ノ高ト揃ハサ
レハ申立テノ如ク許サレナリ

通常ノフナラハ人ノ數衆キ方ヲ取ルナレハ
金ノ高ト人ノ數ト両方ヲ合セテ言ヒタルハ
注意シタルフナルヘシ

如シ人ノ衆キ丈ケヲ取ラハ少數ヲ貸シタル
モノ丈ケ揃ヒテ多數ヲ貸シタルモノ、迷惑
トナルナリ如シ金高丈ケニテ極メタラハ多
數ヲ貸シタルモノ二人位ニテ決スレハ少數

ヲ貸シタルモノ、迷惑トナレ

右佛ニテ立タル法ナレ氏当今ハ歐洲各國ニ

テモ之ニ照準シタル法アリ

民事ニ於テハ絶テ右等ノ事之レナシ商事ハ

別格ナリ

或ハ二分トカ半分トカ約束カ付タトシテ一

應相濟ニ自分ノ業ヲ為シテ居ルニ再ニ不束

ニテ身代ヲ減スル片前債主ヘ返スヘキ約束

ノ金額ヲ減セサル様法律ヲ以テ定メアルナ

リ

此者ニテ更ニ分散トナル片ニ前債主アル上

更ニ後債主ノ出来タルトキハ如何

ソノ時ニハ分散人ニ不動産アル片ハ法律ニ

テ前債主ヘノ引当ト看做シ後債主ニテハ右

ヘキヲ付ルヲ能ハズ

如シ不動産ナケレハ約束證券ノ片ニ保証人

ヲ立ツルヲアリ

其分散人初メハ種々ノモノヲ賣リタリトモ

而後ノ商賣ニ付テハ債主ヨリ制限ヲ立ツル

ヲアリ外國等ハ行キ商スルトキハ何様ノヤ分カラサルニヘナリ亦約束

ノ片ニ定ムル
ナリ

未タ分散ヲナサ・ル前ニタトヘハ支那人ト
約束ヲナシ置キ其約束法ニ適シタルモノニ
テ改ムルヲノ出来サルトキハ即チ約束ノ通
リ取引ヲナサシムルナリ

ソノ後再ニ分散トナリタルトキ過失分散人
トナリテ輕罪ヲ凌ルナリ

ソノ支那人ト約シタル為メニ潰レルモ別人
ト約シタル為メニ潰レルトモ再ニ潰レタル
トキハ廉耻面目ニ闕スルユヘニ刑人トナリ

入獄ヲ命セラル・ナリ

右ノ如ク再ニ分散ニ至レハ法律ニ依テ罰ス
レトモ「コンコルター」ヲナスハ二度モ三度モ差支
ナシ

ソノ情ニヨリ罰セサルコトモアリ二度モ三
度モ約束ヲ破ルユヘ氣ヲ向ケル為ニ罰スル
ナリ

「コンコルター」ハ裁判官ニテ言渡スカ
「コンコルター」ハ未タ裁判所へ届ケ出ルカ
其「コンコルター」調タル上ニテ商法裁判所へ出

スソノ中裁判所ニテヨロシト書テ渡スナリ
此場合ニ於テ不都合ノトキハ裁判所ニテ聞
濟ムコトヲ肯シセサルコトモアリ
二度ノ三度メニ至リテハ裁判所ニテ決シテ
肯セス

最初ノ債主ハ不動産モアリ又証人モアルユ
ヘ多分ハ損ニナラス
不動産アレハ最初ノ債主ノ損ニハナラスト
虽モ万一無之時ハ證人アリ
既ニ法律上ニテ引当ト見做スユヘ不動産ニ

於テハ「コンコルター」ニ入ルニ及ハス
民事ニテハ何ノ故ニ「コンコルター」ヲ為サルヤ
民事ハ食ノ為メ計リナリ別ニ物品ヲ運用シ
商業ヲ営ムニアラス故ニ直今ニソノ財産ヲ
取ルノコト
商事ナレハ利ヲ得ルノ道アルユヘ此ノ如キ
コトナレバ大抵ノコトハ押付ルコトモアルナリ
民事ノ分散ニ於テモ時ニヨリ相談スルコトモ
アレ氏銘々ノ勝手自由ナリ
既ニ裁判所ニテモ聞濟ミ約束ノ調フタル上

ニソノ年賦第一ノ期ニ至リ約ニ違ヒ掛ハサ
レハソノ廢ニテ右ハ消滅スルナリ
万一「コンコルター」ヲ出来タル上ニ詐偽分散ナ
ルトノ發覺ニタルトキハソノ一事ヲ以テ取
消トナル

元ヨリ詐偽ナルトヲ知リタルトキハ「コンコルター」
ニハナラス故ニ「コンコルター」ヲナシタル日ヨ
リ消滅スルナリ

分散言渡ヨリ「コンコルター」ニ至レマテノ間ニ
訴ヘノ起ルトアラハソノ時ハ分散人ヲ相手

取ルトハナラス監財人ヲ相手取ルナリ
第二ノ事

万一「コンコルター」ノ調ノハサルトキ又調ヒタ
リトモ詐偽等ノ知レテ裁判所ニテ肯ンセサ
ルトキハ第二ノ事ニ移ルナリ

今迄ノ間ハ別ニ名目ナシ之レヨリ後ノ事ハ
「エタデユニラシト」云フ人ノ聚マリタルト云フ
義ナリ以下ハ分配會計ノ「ニ」至ルナリソノ
財産分配出入等ヲ仕分ケスルナリ
ソノ間ニハ監財人居リテ凌取渡シヲ為ス

一箇所要ナルヲ云ハシ

分散ノ商品澤山アルニ一時ニ賣レハ下直
ナリ故ニ監財人ニテ此品ヲ賣リ切ルコトハ
命散人ニアラサルニナシ度ト願フトキ之
レヲ許スヲアリソノ片ハ衆債主打寄リテ商
ヒスルモノト者做スナリ

タトヘハ一ウノ製造場アラシニ澤山ノ品物
ヲ一時ニ賣レハ下直ナリソノ時分散人ニテ
ハ早ク片付ケ度ト思フナレ氏債主ニテ監財
人ノ言ヲ聞キ尤ト思フ片ハ相談ヲナシテ聞

店ニテソロソロト賣ルヲモアリ

高賣ノ續クト續カサルトノ見定メハ甚々難
シ故ニ衆債主ニテ相談ヲナスナリ

ソノ相談ノ時ハ人ノ數モ金ノ高モ四分ノ三
ニ至ラサル可カラス<sup>第一ノコンコルターノ時ヨリ人
ノ數ヲ多クスルナリ</sup>

此相談ニ至リテハコンコルターノ時ヨリ一層
重クナルユヘナリ

此相談ハ不意ノヲナリ元ト債主ノ集會ハ品
ヲ取調ヘ配分セントノ為メナリ然ルニソノ
片ニソロソロ賣ルノ相談トナルユヘナリ

右等ノ場合ニテ当人ハ全ク閑セスヤ又ハ監
財人ニテ当人ニ代リテ申立ルヤ
第一ノ事ハ全ク監財人ニテナスナリ第一ノ
事ノ時ハ当人モ頭ヲ出スナリ此監財人ハ則
チ商人ニテ当人ヨリハ立派ニ仕分ノ出来ル
モノナリ

如シ相談調フテ引續ク商ヒノ時ハ裁判所ニ
テモ閑スレ氏弥分散トナルトキハ裁判所ニ
テハ一切閑セス

裁判所ニテハ相談ノ出来タル上ニテ閑済ム

ト閑済マサルニアリ

更ニ餘論ヲ陳ヘントス未タ知ラス緊要ナリ
ヤ否

一事ニ注意セサルヘカラサルコトアリタトヘ
ハ十五年專賣免許ヲ得タルモノソノ年限中
ニ分散トナリタルトキソノ十五年間專賣
ノ権ヲ得セシムヘキカ又ハ製造品ノ庫中ニ
アル丈ケヲ賣ラシムヘキヤ

別續キ製造
苦シカラス

右ハ十五年間ハ專
賣ヲ為スヲ得ル故ニ

タトヘハ日本ニテ桑ヲ植ヘ製絲ヲナサント

スルニソノ業ノ半ハニ至リ潰レタルトキ債
主ニラソノ資本トナルヘキ諸品アルニ於テ
ハ後未ソノ業モツキ金モ取レルト見込ムト
キ債主ニテ兼知シテ業ヲナサシムルニ数年
ノ後負債ヲ消却スルトキハ終ニ分散セシ
テ止ムコトアリ

監財人ニテ支配スル中ニソノ監財人モ潰レ
テ再ニ分散スルトキハ監財人ニテ分散トナ
ルナリ

初相談ノ時四分ノ二ハ兼知スル人ニテソノ
餘ノ不兼知ノ人ハ再度分散ノ損ハ受ケス四
分ノ三ノ兼知セン人ニ平均ヲ掛ケテ損ヲナ
サシム

以上第二ノ事ナリ

専賣中他人ニテ右ヨリ一層上ヘノ發明ヲナ
ストキハ此専賣ハ衰微シテ賣レサルアリ
専賣中ソノ人ニアラサレハ出来サルモノア
ル可シ右等ノ人ノ分散トナリタルトキハ如
何スルヤ

ソノ時ハ一ケノ職人トナリ又ハ製造所ノ雇

人トナルセリ

若シ此後高法ノ續カサルト見留メタルトキハ製シ出シタル品ヲ糶賣シ併セテ專賣免許ヲモ受ルコトアリ

第三ノ事

第二ニ於テ分配ヲ済マシタル上残り負債高何程ト書付ケテ作り夫々債主へ渡シ濟ミトナル此所ニテ監財人ノ職ハ終ル

第三ノ事ニ於テハ瑣事ナレ氏之レヲ一ツノ事トナシ三ツノ事ニ分カタサルヲ得ス何ト

ナレハ今散人ニテ身代ヲ取り直シタル時ハ債主銘々自カラ行テ取ルナリ故ニ残り高ノ書付ハ所要ナリ之レニテ第三ノケ条畢ル其後銘々ニテ取ル節ニ至リテハ取り勝ナリ故ニ中ニハ取ルコトノ出来サル債主モアリ分散シテ一品モナク監財人ヲ立ツルコトモ出来サルコトアリソノ時ハ銘々ヨリ貸シタル金ト見切ルナリソノ名ヲ入額ノ不充分ノ結局エロケール、アール、アンシヒカン、テ、ト云フアタケース

今散人富家ヲ相續スルトキハ債主ニテ銘々

行ヲ取ル
今散人ノ跡ハ相續スルモノ絶ラアルナシ
若シ相續スレハ債主ニテソノ相續人へ掛ル
ナリ

